

令和6年度 地域づくり交付金事業概要

- 地域づくり交付金は、地域における様々な課題解決に向け、自主的かつ継続的に活動する市内21地域の地域づくり協議会を支援するため、平成22年度に創設した制度です。
- 地域づくり協議会は、アンケートや座談会などを通じて地域の課題を取りまとめ、これに対応するための地域づくり計画を定め、この計画に基づく事業を実施するため交付金を申請します。
- この事業概要に掲載している3つの事業は、数ある事業の中から、その地域で重点的に取り組まれたものを挙げています。

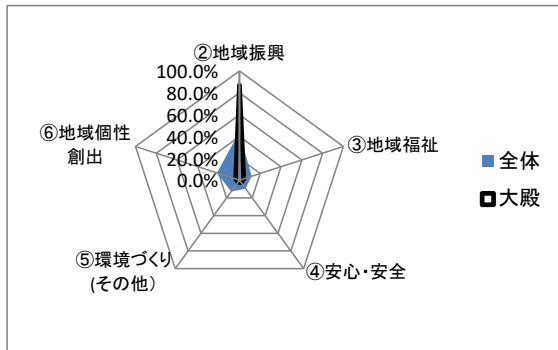
**掲載順:大殿・白石・湯田・仁保・小鯖・大内・宮野・吉敷・平川・大歳・陶
鑄銭司・名田島・秋穂二島・嘉川・佐山・小郡・秋穂・阿知須・徳地・阿東**

おおどのコミュニティ協議会 地域づくり交付金事業概要(令和6年度)

■地域の情報

地域人口	6,966	自治会数	29
世帯数	3172世帯	自治会加入率	87.6%

※数値は、令和7年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分枠	7,973,000 円
交付金決算額	7,937,864 円
その他収入	1,679,615 円
交付金決算額／配分額	99.6%

各分野の決算

①協議会運営	5,727,434 円
②地域振興	3,381,172 円
③地域福祉	162,559 円
④安心・安全	114,179 円
⑤環境づくり(土木工事)	0 円
⑥環境づくり(その他)	88,000 円
⑦地域個性創出	144,135 円
決算総額	9,617,479 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

はたらくところがあり、心豊かに暮らし続けることができるまち

■総括

第6期大殿地域づくり計画の1年目にあたり、各部会の年間事業予定に沿って会議を開き、皆で協力し事業を進めることができた。専門部会(あんぜん部会・やすらぎ部会・にぎわい部会)と運営委員会の位置づけとして、専門部会は、地域課題一つ一つの視点を明確にしてその解決策を協議、検討する。運営委員会は、地域内の連携強化のため「まず知り合うことから」というスタンスで協議を重ねている。基本目標の「はたらくところがあり」に込めたやりがいやいきがいにつながるよう、地域住民に幅広い参加を促すタイムリーな情報発信に努めた。地域の良さや魅力の再発見と新たな人材の巻き込みにつながる事業を目指して、まちづくりを知ってもらう、参加してもらう、参画してもらう、それぞれの段階で関われるメニューを用意するなど、会員が支える事業から住民が参画する事業へシフトしていく仕掛けを検討していきたい。

■分野別事業名

① 協議会運営	・事務局の運営体制
② 地域振興	・地域情報の発信と広報活動事業 ・地域行事の活動支援事業 ・地域の地縁の輪づくり事業 ・地域コミュニティ推進事業(つながり) ・助成金交付事業
③ 地域福祉	・三世代交流事業 ペタンク大会 カローリング体験会 ・健康づくり事業 健康体操教室活動支援事業 健康ウォーキング ・おおどのかたすけあいのまちづくり事業
④ 安心・安全	・大殿地区安心安全のつどい事業 ・自主防災活動推進事業 ・地域見守り活動事業 ・反射鏡設置事業
⑤ 環境づくり	・環境整備事業 ・土木工事
⑥ 地域個性創出	・伝統文化の保存継承事業学習会 ・地域活性化事業

■重点的に取り組んだ事業

①	事業名	地域情報の発信と広報活動事業	決算額	823,350円
	目的	連携強化とつながる活動の推進		
	実施内容	各町内会各団体との連携強化や情報共有を図るために、「チーム大殿」の視点での広報紙の一元化をし「地域情報みんなのおおど」として発行及びホームページの定期更新に努めた。		
	実施時期	毎月1回発行 会議月2回		
	参加人数	会議7人		

	成果	地域の皆さんのお意見を拾う取り組みとして、やまぐち21元気ミーティングへの意見を募集した。また、サークル「大殿の魅力発信ネットワーク」が動画配信を行った。		
	評価	広報紙での参加募集は、QRコードを活用し申し込みしやすくした。各団体の活動状況、行事予定など地域のいろいろな情報を発信し、この広報紙1冊で大殿地域のことわざがわかるものができた。		
	今後に向けて	広報紙を通じた地域コーディネートの在り方を引き続き模索していく。		
②	事業名	地域の地縁の輪づくり事業	決算額	717,484円
	目的	連携強化とつながる活動の推進		
	実施内容	各町内会に「大殿七夕ちょうちん」の設置と「おうちで「軒先ちょうちん」を飾ろう」と呼びかけた。町内会以外でも「子ども縁日」や「火起こしの儀」「やかたちょうちん」の灯入れなどを行った。		
	実施時期	7月から8月		
	参加人数	灯入れサポーターの参加者は101名(うち保護者42名)		
	成果	「おうちで軒先ちょうちんを飾ろう」80セットの協賛があった。 地域の皆さんに協賛いただき、軒先ちょうちんを飾った写真をホームページに掲載した。		
	評価	会員による事業運営から住民を巻き込んだ事業運営にシフトしていくという視点も入れ協議を深めた。参加したくなるボランティアスタッフ募集告知の打ち方を検討した。八坂神社にやかたちょうちんを設置し、ちょうちんサポーターやボランティアスタッフを募集して、町内会設置以外の催し物を手助けいただいて、みんなでちょうちんまつりを盛り上げることができた。		
	今後に向けて	来年度の「つながる大殿七夕ちょうちん」に向けて竹の伐採作業を行った。 軒先ちょうちん用の竹と合わせて準備することができている。		
③	事業名	地域コミュニティ推進事業(つながり)	決算額	59,995円
	目的	連携強化とつながる活動の推進		
	実施内容	①庭木の学校、②里山の学校(初心者向け山登り)、③ボランティアの学校、④山口市消防出初式バス視察		
	実施時期	5月から11月にかけて		
	参加人数	①1回目9名、2回目7名、②前日雨天のため中止、③灯入れサポーター参加者101名、作業スタッフ29名④8名		
	成果	消防出初式バス視察に関しては、2年目の今回も参加8名と少なかったため、バスではなくジャンボタクシーとなった。		
	評価	研修事業は、新たな参加者を巻き込むための学校シリーズで、地域の良さや魅力を再発見してもらい、参加者同士が交流を深めた。住民の参加により、まちづくりを知つてもらう機会ができた。		
	今後に向けて	地元大殿消防団員の活動、周知や応援を目的とした事業。来年度も継続できるように、行事の内容を充実したものにしたい。		
④	事業名	伝統文化の保存継承事業	決算額	63,389円
	目的	地域への愛着を深めてもらうもの		
	実施内容	第1回「大内のお殿様そのルーツ」、第2回「大内のお殿様とサビエル」、第3回は「大殿まちあるき」		
	実施時期	第1回 9月29日 第2回 12月1日 第3回 3月9日		
	参加人数	第1回 34人 第2回 39人 第3回 19人		
	成果	文化財専門監古賀氏を講師に、大内文化にまつわる出来事や他国との関りなどについて映像や資料を見ながら詳しくわかりやすく解説していただいた。地域のお宝である神社・仏閣を宮司さんの解説を聞きながら、日頃入れない場所も実際に見ることができた。		
	評価	実際に神社仏閣を運営されている宮司・住職や専門家から歴史的価値について詳しく聞くことができ、地域への愛着が芽生える第一歩となった。		
	今後に向けて	今後も、地域の歴史をより深く知っていただくため学習会を開催し、地域のお宝(歴史、文化、祭り)を再発見しながら大殿地域の魅力を広めていきたい。		

重点的に取り組んだ事業(大殿)

○地域情報の発信と広報活動事業



○地域の地縁の輪づくり事業



つながる大殿七夕ちょうちん

○地域コミュニティ推進事業(つながり)



庭木の学校

○伝統文化の保存継承事業



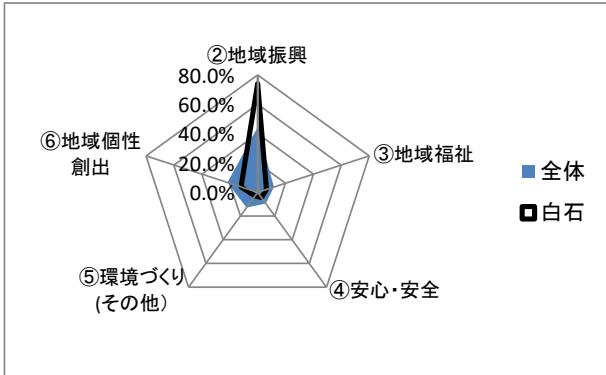
地域のお宝学習会

白石地区地域づくり協議会 地域づくり交付金事業概要(令和6年度)

■地域の情報

地域人口	10,439人	自治会数	40
世帯数	4,866世帯	自治会加入率	79.9%

※数値は、令和7年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分枠	8,748,000 円
交付金決算額	8,627,493 円
その他収入	82,455 円
交付金決算額／配分額	98.6%

各分野の決算

①協議会運営	5,668,128 円
②地域振興	2,254,973 円
③地域福祉	192,851 円
④安心・安全	136,576 円
⑤環境づくり(土木工事)	0 円
⑤環境づくり(その他)	95,450 円
⑥地域個性創出	361,970 円
決算総額	8,709,948 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

みんなでつくる住みよいまち・白石

■総括

今年度は、交付金の活用によって、専門部会、実行委員会等を中心とした地域課題の解決に向けた取組みが進んだ。
今後については第4次地域づくり計画に基づいて、地域課題を解決するための手段としての事業を企画し(P)、地域住民が主体となって遂行し(D)、事業結果(効果)を検証し(C)、改善する(A)ために、地区住民同士が自由に話し合える場づくりに重点的に取組む。

■分野別事業名

① 協議会運営	事務局長及び事務員人件費、事務費
② 地域振興	地域づくり活動参加促進、広報事業、第4次地域づくり計画策定、小中学校交流イベント「逃走中」、「やまぐちえき」応援イベント、白石フェスティバル開催支援、白石地区親睦大運動会開催支援、町内会親睦活動支援、ふるさとまつり参加促進事業
③ 地域福祉	チャレンジ健康づくり、健康食のおススメ、グラウンドゴルフ参加促進、むかし遊び
④ 安心・安全	危険防止看板設置等、反射鏡設置等事業、自主防災活動参加促進、夏休み防災訓練キャンプ実施、安全パトロール事業
⑤ 環境づくり	環境美化・保全活動推進
⑥ 地域個性創出	白石歴史探訪の会

■重点的に取り組んだ事業

	事業名	地域づくり活動参加促進	決算額	338,060円
	目的	地域課題解決のための方向性を会員団体が共有する環境づくりと地域づくり活動に参加する地縁者、とりわけ現役世代の参加促進を図る。		
	実施内容	専門部会や実行委員会を開催し、地区住民同士の話し合いの機会を設け、地域づくりに関わる地区住民の増加を図った。		
	実施時期	通年		
①	参加人数	136人		
	成果	今年度における専門部会の出席率が81%となり、昨年の84%と比較して3%減少した。 また、参加人数が136名となり、昨年と比較して21名(18%)増加した。		
	評価	理事等役員と白石小中PTA等子育て世代(現役世代)が交流する機会を増やすことで、より幅広い協力体制が構築できた。		
	今後に向けて	今後も地域づくり活動への参加意識の喚起・触発等啓発活動を推進し、地域づくりに関わる地区住民の増加を図っていく。更に、商店街、市民活動団体等との連携を強化しつつ、子育て世代等現役世代や10代の参加を促進しながら、地域活動を進める。		
	事業名	「やまぐちえき」応援イベント	決算額	188,834円
	目的	地域住民同士やSL乗客等他地域住民との交流促進を図る。		
	実施内容	山口駅においてSL・DLおもてなしイベント活動、JR山口駅ロータリーの環境美化活動、写真展「ご当地自慢スポット in 山口」、山口駅周辺において観光ボランティア「てくてくウォーキング」を実施した。		
	実施時期	令和6年5月、6月、8月、10月、11月、12月		
②	参加人数	16人		
	成果	2年振りのSLやまぐち号・DLやまぐち号・クリスマス号のおもてなしイベント、ご当地写真展、観光ボランティア「てくてくウォーキング」等を開催し、利用者や近隣住民の皆さんへ白石地域の魅力を発信した。実行委員や支援者の地域活動における協力体制への意識が高くなり、自発的に行動できるようになった。		
	評価	JR山口駅待合室での『ご当地写真展』では、駅利用客等の皆さんへ「ちょうちん祭り」等の伝統文化や白石地区および近隣地域の魅力を発信することができた。白石歴史探訪の会とコラボ開催である観光ボランティア「てくてくウォーキング」では、参加者との交流を深めることができた。		
	今後に向けて	今後も継続してJR山口駅のおもてなしイベントの実施、ご当地写真展の開催、駅前ロータリー清掃を実施する。また、6・10月の観光ボランティア「てくてくウォーキング」については、来年度も白石歴史探訪の会とコラボして実施したい。		
	事業名	ふるさとまつり参加促進事業	決算額	373,722円
	目的	子どもからお年寄りまで家族ぐるみで参加していただき、地域の伝統文化に触れる事により、郷土愛を育み、以って地域住民の連帯感や絆を深める。		
	実施内容	【はだるまつり】は無料休憩所の設営・運営および交通警備を行った。 【祇園祭】は御神幸・御還幸のお神輿担ぎ募集・直会を開催した。 【ちょうちんまつり】は、ステージは設置せずに、ほたる広場では白石カフェのみを行った。 8月6日に白石小・中PTAを中心に、ミニちょうちんツリ一点灯・願い事短冊の飾付を実施。		
③	実施時期	令和6年6月1日、7月20日・27日、8月6日・7日		
	参加人数	557人(スタッフ等協力者延人数)		
	成果	【ほたるまつり】参加者33人 【祇園祭】参加者185人 【山口七夕ちょうちんまつり】参加者339人 白石小学校・白石中学校のPTA関係者の多くの協力を得た。		
	評価	事前に会議を行い、最終確認をしたことから、事前準備、お祭り、片付けまで円滑に実施できた。		
	今後に向けて	伝統文化活動を通じて、子どもからお年寄りまでの三世代間の交流を促進する。とりわけ、自治会連合会を通じて、各単位自治会から最低1名程度の参加を実現したい。		

重点的に取り組んだ事業(白石)

○地域づくり活動参加促進



○「まちのえき」応援イベント



SL・DL おもてなしイベント



JR 山口駅ロータリーの環境美化活動

○ふるさとまつり参加促進事業



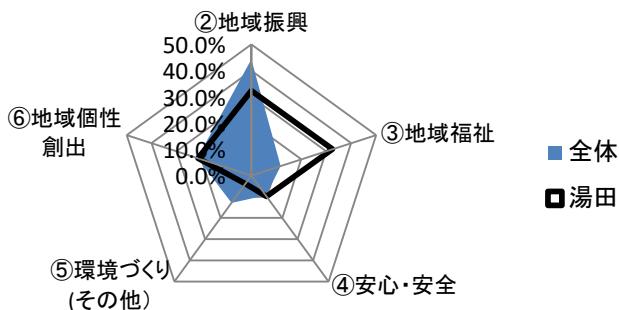
七夕ちょうちんまつり

湯田地区コミュニティ運営協議会 地域づくり交付金事業概要(令和6年度)

■地域の情報

地域人口	12,741人	自治会数	15
世帯数	6,345世帯	自治会加入率	69.1%

※数値は、令和7年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分枠	10,261,000 円
交付金決算額	10,261,000 円
その他収入	106,477 円
交付金決算額／配分額	100.0%

各分野の決算

①協議会運営	4,728,697 円
②地域振興	1,233,449 円
③地域福祉	1,238,125 円
④安心・安全	376,435 円
⑤環境づくり(土木工事)	1,825,000 円
⑥環境づくり(その他)	148,701 円
⑥地域個性創出	817,070 円
決算総額	10,367,477 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

「住み良さを未来へ繋ぐ湯田のまち」をキヤツチフレーズに、第3次地域づくり計画の4年目であり、その計画の実践を通じて、より一層住み良いまちづくりを推進していきます。

■総括

第3次湯田地区地域づくり計画の4年目として、昨年に引き続きコロナウィルス等感染拡大防止を図りながら、やむを得ず中止もしくは規模縮小となった事業はあったものの、何とか進めることができました。特に、湯田地区の3大事業である「大運動会」「ふれあい安心安全フェスタ」「ふるさとまつり」については、雨天中止の運動会を除き、万全の感染対策のもと各団体の協力を得て開催することができました。

今後も生活課題の解決に向け、「こんこんパーク」の積極的活用を念頭に各事業の抜本的見直しを進めながら、事業運営の主体となる地域づくり協議会としてハブ機能の強化に取り組んでまいります。

■分野別事業名

① 協議会運営	事務局の運営体制
② 地域振興	広報活動、地域づくり活動、交流事業の推進、地域スポーツの振興
③ 地域福祉	高齢者福祉事業、子どもの居場所づくり、夏休みこども企画、子ども福祉事業、少年綱引き大会、親子クッキング、ふるさとまつり
④ 安心・安全	交通安全教室、総合避難訓練&ふれあい安心安全フェスタ、地域安全に向けた活動、青少年協啓発・非行防止活動、反射鏡設置等補助事業
⑤ 環境づくり	土木工事(法定外公共物等)、環境美化活動、湯田中VS活動、湯田小PTA環境整備活動
⑥ 地域個性創出	郷土の歴史文化の活用、行事用備品等整備

■重点的に取り組んだ事業

①	事業名	交流事業の推進 (第59回湯田地区町内親睦大運動会)	決算額	42,650円
	目的	地域内での親睦・交流を深めるとともに、健康づくりの推進を図ること		
	実施内容	各町内会対抗での大運動会		
	実施時期	令和6年5月12日(日)→雨天中止		
	参加人数	—		
	成果	—		
	評価	—		
	今後に向けて	本年度準備した景品(賞品)・消耗品等の有効活用により、来年度は当初計画通り3年振りの開催を目指します。		
②	事業名	防災・減災活動等への推進事業 (総合避難訓練＆ふれあい安心安全フェスティバル)	決算額	258,467円
	目的	安心・安全に対する意識の高揚を図ること		
	実施内容	地域の防災に対する意識の高揚と、大規模災害に備えての避難訓練及び防災に係る研修を行い、災害時においても円滑な運営が行われるよう全町内会で取り組みました。		
	実施時期	令和6年9月29日(日)		
	参加人数	約600名		
	成果	コロナ等感染対策を実施の上、湯田モデルとして従来通り実施。6年度は、防災食を全て炊き出しで賄ったことから、費用削減を図ることができた。		
	評価	各町内会長はじめ防災担当者、社会福祉協議会等関係団体との連携を確認できた。		
	今後に向けて	これからも工夫しながら事業を継続していきます。		
③	事業名	交流事業の推進 (第35回湯田ふるさとまつり)	決算額	495,844円
	目的	地域団体の学習発表及び地域住民の交流を図ること		
	実施内容	第35回湯田ふるさとまつり		
	実施時期	令和6年10月20日(日)		
	参加人数	約3,000名		
	成果	感染対策に留意しつつ、飲食バザー部門の完全復活や盛大な餅まきの実施等により、天候にも恵まれ子どもを始め多くの参加者がありました。		
	評価	役員・関係者・参加者の皆さんの協力により、盛りだくさんのイベントを実施することができました。		
	今後に向けて	来年度からは、こんこんパークでの開催を目指します。		

重点的に取り組んだ事業(湯田)

○総合避難訓練＆安心安全フェスタ



○交流事業の推進(第35回湯田ふるさとまつり)

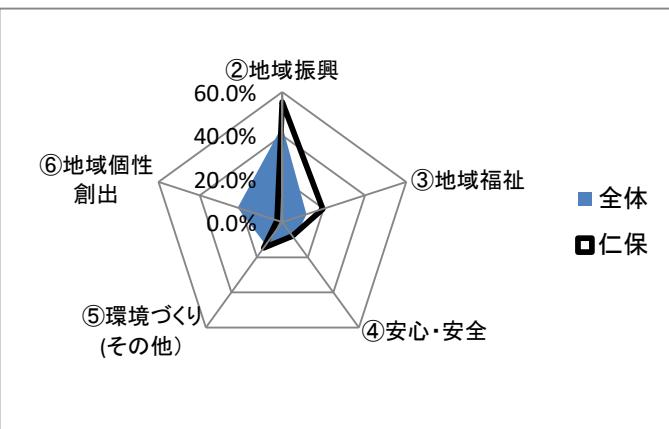


仁保自治会 地域づくり交付金事業概要(令和6年度)

■地域の情報

地域人口	2,635人	自治会数	23
世帯数	999世帯	自治会加入率	91.5%

※数値は、令和7年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分額	9,763,000 円
交付金決算額	9,647,834 円
その他収入	9,547 円
交付金決算額／配分額	98.8%

各分野の決算

①協議会運営	5,226,775 円
②地域振興	1,112,552 円
③地域福祉	393,179 円
④安心・安全	156,820 円
⑤環境づくり(土木工事)	2,422,880 円
⑤環境づくり(その他)	293,080 円
⑥地域個性創出	52,095 円
決算総額	9,657,381 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

「広げよう いいとこ仁保 未来へつなげ!!～仁保に胸キュン～」を合言葉に住み良い地域づくりを進める

■総括

令和6年度は第3次地域づくり計画の最終年度となった。第4次地域づくり計画の策定に向け、「仁保の未来を語る会議」を立ち上げ、「住みよい仁保にしたい」という思いを持った各世代のメンバーを集めて、半年以上にわたり、地域の課題や問題を解決するための活動計画について計6回、検討会を行った。

また、地域の活性化や安心して生活できる環境づくりを達成するために、高齢者サポート事業として仁保地域支え合い隊の事業を支援し、高齢者に優しい住みよい地域づくりに取り組んだ。情報発信事業では、地域広報環境を充実させ、仁保の魅力を広くPRすることで、地域内外の交流促進を図った。定住促進にかかる活動では、空き家を活用したイベントを実施すると共に、安全を図るために地域内の空き家の実態を調査し、キントーンを活用してデータベース化した。

■分野別事業名

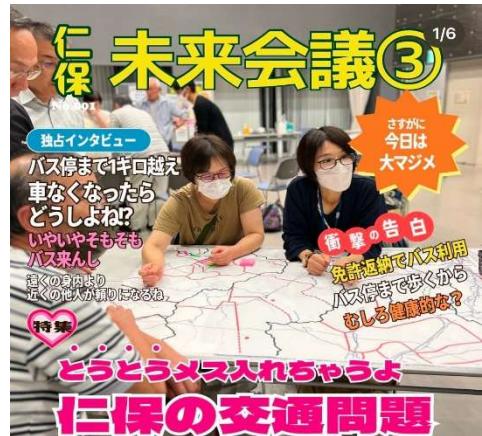
① 協議会運営	事務局給与、事務費
② 地域振興	情報発信事業、地域交流促進事業、地域活性化応援事業①、有害鳥獣被害防止推進事業、ニュービジネス・産業振興事業、定住促進事業
③ 地域福祉	高齢者サポート事業、健康増進事業、ニュースポーツ振興事業、こども高齢者交流事業①、子育て支援事業
④ 安心・安全	交通安全推進事業、防犯灯設置補助事業、自主防災活動実施事業
⑤ 環境づくり	法定外公共物等整備事業、清掃活動推進事業、環境維持保全事業
⑥ 地域個性創出	歴史文化伝承事業、こども高齢者交流事業②、地域活性化応援事業②

■重点的に取り組んだ事業

①	事業名	情報発信事業	決算額	605,391円
	目的	住民が地域情報を共有できるようにする。		
	実施内容	自治会だよりに加え、ホームページやインスタグラムをこまめに更新し、情報発信を行った。 キントーンを活用し、情報の共有や事務の効率化を図った。		
	実施時期	通年		
	参加人数	地域内戸数約950戸		
	成果	仁保だより年2回発行、ホームページやインスタグラムを随時更新		
	評価	地域情報を適時に地域内外に発信することにより、住民の地域意識が熟成される。 第4次仁保地域づくり計画のために行われた「仁保未来会議」の開催内容を、速やかに住民に発信できている。		
②	今後に向けて	SNSを活用して更に魅力ある情報を発信していきたい。		
	事業名	有害鳥獣被害防止事業	決算額	100,000円
	目的	有害鳥獣(サル)による農作物への被害が年々増加していることから、被害防止対策に援助し、安心して農業ができる地域を保つ。		
	実施内容	有害鳥獣による農作物への被害は年々増加傾向にあり、特にサルによる被害が大きいことから被害防止対策に取り組んだ。		
	実施時期	通年		
	参加人数	(随時実施)		
	成果	田畠を荒らす有害鳥獣を追い払い、被害防止に努めた。 サルにGPSをつけた結果、サルの軍団の動向が分かるようになった。		
③	評価	一時的な追い払いでは被害があまり減らない。		
	今後に向けて	今後も有害鳥獣被害対策協議会と連携して被害を防止していきたい。		
	事業名	地域交流促進事業	決算額	265,692円
	目的	交流人口の増加を促進し、地域の活性化を図る。		
	実施内容	写真コンテストの実施。地域で交流人口の増加に資する団体を公募し、補助を行った。		
	実施時期	随時		
	参加人数	写真コンテスト参加者は26人、補助金交付団体は4。		
	成果	写真コンテスト応募82点。 地域のグループが活動に加わった。		
	評価	写真コンテストでは多数の応募があった。 グループを支援することで、交流人口の増加を促進し、地域の活性化を図れた。		
	今後に向けて	令和6年度に新たに2団体が結成され、令和7年度、補助金を受けながら地域づくりに取り組む予定。		

重点的に取り組んだ事業(仁保)

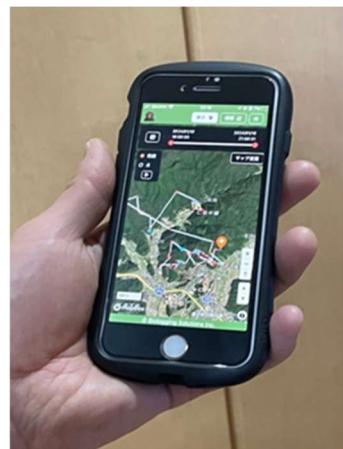
○情報発信事業



○有害鳥獣被害防止事業



放置果樹伐採



GPSを活用したサルの動向調査

○地域交流促進事業



移住者交流



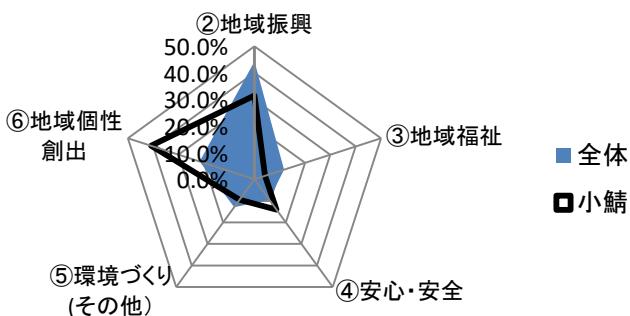
放置竹の活用

小鯖地域づくり協議会 地域づくり交付金事業概要(令和6年度)

■地域の情報

地域人口	3,995人	自治会数	23
世帯数	1,658世帯	自治会加入率	86.1%

※数値は、令和7年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分枠	7,518,000 円
交付金決算額	6,949,203 円
その他収入	367,844 円
交付金決算額／配分額	92.4%

各分野の決算

①協議会運営	4,941,038 円
②地域振興	748,346 円
③地域福祉	97,882 円
④安心・安全	334,192 円
⑤環境づくり(土木工事)	0 円
⑤環境づくり(その他)	225,715 円
⑥地域個性創出	969,874 円
決算総額	7,317,047 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

地域住民及び各種団体が、連携・協力して、自然豊かで安心して住み続けられる地域づくりを進める。

■総括

第4次地域づくり計画も2年経過となり、取り組みはほぼ順調に進めることができた。しかし、地域住民の高齢化及び少子化は、待ったなしで進んでいる。担い手や後継者の不足は深刻な課題であるが、(出来ることを、出来るとときに、できる人が)をモットーに各事業計画を進めている。年度取組事業については、各部会が検討し毎年度の重点課題から取り上げ進めている。打ち上げ花火的な事業はないが、地道に少しづつ進んでいる感じている。

■分野別事業名

① 協議会運営	事務局費(事務局人件費、事務費、通信費等)
② 地域振興	文化財保護育成、地域活性化、デジタル化推進、地域広報誌発行
③ 地域福祉	ボランティア福祉タクシー検討、生きがいづくり支援、見守り配食支援、助け合いの仕組み活動、子育てサロン支援
④ 安心・安全	生活安全・防犯対策、防犯灯維持設置補助、交通マナー向上維持推進、小鯖っ子見守り隊活動、挨拶運動推進、自主防災活動・災害発生防止対策・避難時必要資材充足支援
⑤ 環境づくり	有害鳥獣対策、野良猫対策、清掃活動推進(旧萩往還道・鳴滝公園河川プール)
⑥ 地域個性創出	小鯖夏まつり、小鯖ふるさとまつり、地域複合拠点施設設置推進、大内・小鯖教育圏地域教育支援、鳴滝河川プール管理補助、上下水道設置推進、さばろっち活動等

■重点的に取り組んだ事業

①	事業名	複合拠点施設設置検討事業	決算額	25,106円
	目的	豊かで住み続けられる小鯖を創造するため、自治会及び各種団体等が連携し、将来の小鯖に必要な機能を備えた複合拠点施設の設置を目指し検討する。		
	実施内容	複合拠点施設設置検討委員会を立ち上げ、交流センターの利用団体等へのアンケートやワークショップを実施し意見を集約した。		
	実施時期	一年を通じて検討を重ねた。		
	参加人数	自治会、協議会、地域住民等(アンケート、ワークショップ参加者等)約500名		
	成果	アンケートやワークショップを行うことにより多くの意見を収集し、取りまとめて複合拠点施設設置のための要望書を作成した。		
	評価	自治会や地域の団体へアンケートやワークショップを行うことで多くの意見を聴取し、取りまとめることが出来た。		
②	今後に向けて	建設委員会(仮称)を設置し、複合拠点施設建設に向けて進めていくこととなる。		
	事業名	助け合いの仕組み事業	決算額	16,098円
	目的	高齢化社会へ向けて、地域の助け合い等の支援が出来る環境づくりを目指す。		
	実施内容	ゴミ出し支援に加え、試験的に庭の草取りや買い物代行の支援に取り組んだ。		
	実施時期	通年		
	参加人数	ボランティア36名		
	成果	利用する高齢者は、現在は少数であるが、地域に制度が浸透しつつある。		
③	評価	北東地域包括センターの協力を得て、違法性のないよう法的アドバイスを含めて支援者の理解度を高めた。また、若干ではあるが支援者が増加した。		
	今後に向けて	今後、利用する高齢者が増加することが予想される。		
	事業名	自主防災推進事業	決算額	96,024円
	目的	自主防災の各種研修・訓練等を通じて、住民の防災意識の向上を図る。		
	実施内容	HUG避難所運営ゲーム		
	実施時期	令和6年6月9日		
	参加人数	36名		
	成果	体育館を避難所に想定し、HUG訓練を行い防災に対する認識が深まった。		
	評価	参加者が避難所開設・運営について、ゲーム感覚で疑似体験することで、避難所で起きた様々な出来事を知ることが出来た。		
	今後に向けて	避難所開設、運営訓練を実際に行うよう計画を立てていきたい。		

重点的に取り組んだ事業(小鯖)

○複合拠点施設設置検討事業



検討委員会全体会

○助け合いの仕組み事業



お助け隊報告会

○自主防災推進事業



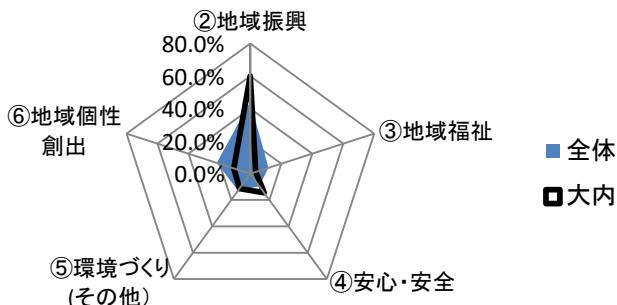
自主防災研修

大内まちづくり協議会 地域づくり交付金事業概要(令和6年度)

■地域の情報

地域人口	22,294人	自治会数	31
世帯数	9,768世帯	自治会加入率	76.2%

※数値は、令和7年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分枠	16,159,000 円
交付金決算額	16,155,109 円
その他収入	1,256,408 円
交付金決算額／配分額	100.0%

各分野の決算

①協議会運営	5,234,389 円
②地域振興	4,852,275 円
③地域福祉	277,669 円
④安心・安全	1,166,969 円
⑤環境づくり(土木工事)	4,096,000 円
⑥環境づくり(その他)	919,254 円
⑥地域個性創出	864,961 円
決算総額	17,411,517 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

元気！ 笑顔！ ともに支え合う大内

■総括

第3期大内まちづくり計画に則って活動を進めており、特に、各種の地域課題をみんなで解決していくうとする姿勢「ともに支え合う」を意識して、いろいろな事業を展開してきた。コロナ感染症の影響で中止していた事業も開催され、大内まつりやおおうち産業フェアなど、各関係団体と連携を取りながら、地域住民がともに支え合い、活力ある地域づくりを進めている。

■分野別事業名

① 協議会運営	事務局長給与、事務局員給与、事務費等
② 地域振興	第45回大内まつり、大内地区健康体育祭、地域産業振興事業、大内ふるさとカレンダー作成、大内地区じんけん学習まちづくり大会、大内子ども未来プロジェクト、大内地区広報誌等印刷事業、大内まちづくり協議会情報共有、第4期まちづくり計画策定事業、児童生徒による産業フェア出展参加事業
③ 地域福祉	老人大学講座、元気あっぷ健康講座、子育て応講座、みんなで語ろう講座、健康促進スポーツ大会
④ 安心・安全	自主防災活動支援事業、災害対策の充実、巡回パトロール、大内っ子まもり隊活動の推進、反射鏡設置補助、交通安全教室の開催
⑤ 環境づくり	法定外公共物等整備、交通安全環境施設設置整備、河川環境美化活動助成金交付、里山河川ふれあい補助、不法投棄防止運動
⑥ 地域個性創出	大内コドモジカン、標語ポスターの作成、標語看板の作成、三世代交流事業、食農教育、大内ごみゼロプロジェクト、大内史跡探訪会、地域協育ネット支援、教育講演支援、学校環境整備支援、夏のフェスティバル

■重点的に取り組んだ事業

	事業名	大内コドモジカン	決算額	169,412円
①	目的	各自治会・町内会単位で市民活動団体のボランティアスタッフと協力し、子どもの体験活動(宿題教室、もの作り教室等)を行い、同じ地域に住む子ども達と大人の新たな絆づくりを目的とする。		
	実施内容	学習会や芋掘り、絵画教室など		
	実施時期	令和6年6月～令和7年1月		
	参加人数	7自治会の役員、子ども達 約100名		
	成果	各自治会、町内会だけでなく広域コドモジカン(大内小校区・大内南小校区)を実施した。今年度は、新たに2団体の参加があった。子どもと大人の新たな絆づくりのきっかけとなっている。		
	評価	子ども達の参加が多数あり、世代間交流が活性化し楽しい行事となっている。		
	今後に向けて	来年度も引き続き実施する。		
②	事業名	地域産業振興事業	決算額	203,022円
	目的	地域の企業や団体が事業の紹介や販売、体験を通して地域住民と交流するおまつり		
	実施内容	地域振興部会と大内商工業振興会が共同で出店企業や団体を募り、おおうち産業フェア実行委員会を立ち上げ、おおうち産業フェアを実施。		
	実施時期	令和6年11月24日(日)		
	参加人数	23の企業や団体、来場者約500人		
	成果	第3回目のおおうち産業フェアに新たに小中高校生も参加団体として参加し、地域の企業や団体、地域住民の交流ができた。		
	評価	地域の企業、団体の活動や各学校の紹介、地域住民との交流の場になった。		
③	今後に向けて	秋のおおうち産業フェアを、これから地域の交流の場として定着させたい。		
	事業名	大内子ども未来プロジェクト	決算額	29,190円
	目的	大内地域の課題を子ども目線で検討する会議を行い、提案する。		
	実施内容	おおうち産業フェアのステージの企画運営についての熟議の開催		
	実施時期	令和6年9月23日(月)、11月2日(土)		
	参加人数	1回目32人、2回目20人(大内小・大内南小・大内中・中央高校の生徒)		
	成果	小・中・高の児童生徒がステージの企画や出展内容を考え、運営した。		
	評価	高校生や中学生、小学生が考え、素晴らしいステージ企画や出展の運営ができた。		
	今後に向けて	地域課題について、継続的に子ども目線で検討していきたい。		

重点的に取り組んだ事業(大内)

○大内コドモジカン



○地域産業振興事業



○大内こども未来プロジェクト

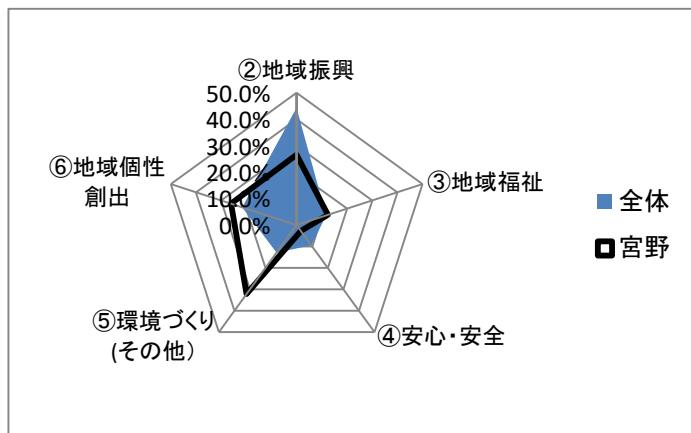


みやの地域づくり協議会 地域づくり交付金事業概要(令和6年度)

■地域の情報

地域人口	13,478人	自治会数	42
世帯数	6,501世帯	自治会加入率	72.3%

※数値は、令和7年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分枠	13,378,000 円
交付金決算額	12,734,442 円
その他収入	2,178,630 円
交付金決算額／配分額	95.2%

各分野の決算

①協議会運営	8,009,817 円
②地域振興	917,191 円
③地域福祉	428,668 円
④安心・安全	94,028 円
⑤環境づくり(土木工事)	3,451,050 円
⑤環境づくり(その他)	1,111,898 円
⑥地域個性創出	900,420 円
決算総額	14,913,072 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

地域住民や各種団体と連携・融合を図るとともに、地域課題の解決に向けた活動を活性化し、安心・安全な地域づくりを進めます。

■総括

長く続いたコロナ感染対策の終了から、従来通りの環境に戻ると想定していましたが、予定通りとはいきませんでした。気候変動による猛暑、荒天に事業が中止されることも多々ありました。地域づくり計画に基づき、新たな事業を計画しましたが未実施事業もあります。部会で実施時期を再検討する必要があります。部会との連携を密に「地域課題解決」に向け、「地域活性化」「円滑な事務局運営」を図ります。

■分野別事業名

① 協議会運営	事務局運営費用(人件費:事務局長1名、事務局員3名、事務費)
② 地域振興	広報活動事業 未来構想研究事業（県立大学南キャンパス跡地利用・県林業指導センター跡地） 子ども食農教育事業
③ 地域福祉	あいさつ運動事業 救命講習会開催事業 世代間交流開催事業 講座・講演会開催事業 コミュニティ交通検討・支援事業 ふれあいスポーツ交流事業 ニュースポーツ普及事業
④ 安心・安全	子どもの安全対策事業 高齢者の安全対策事業 反射鏡設置等補助事業 防犯灯設置等補助事業 防災対策向上事業

⑤ 環境づくり	土木工事（法定外公共物）
	木戸山公園整備事業
	クリーン作戦啓発事業
	さくらの里づくり維持管理事業
	里山資源利用団体支援事業
	地域と県立大学の交流会支援事業
	着物喫茶支援事業
	まち歩き支援事業
	道路維持活動助成事業
⑥ 地域個性創出	歴史講座開催事業
	歴史・文化・自然写真コンテスト事業
	名所・旧跡等保全活動事業
	ホタルまつり支援事業
	祇園裸坊参加支援事業

■重点的に取り組んだ事業

①	事業名	未来構想研究事業(県立大学南キャンパス跡地利用・県林業指導センター跡地)	決算額	6,575円
	目的	県有地の跡地利用は将来の宮野に大きな影響を与えることから、山口県・山口市との連携を強化します。		
	実施内容	南キャンパス跡地利用に伴う県・市からの情報を周知しました。		
	実施時期	通年		
	参加人数	県関係機関情報交換:6人 移動市長室:25人		
	成果	南キャンパス跡地利用及び林業指導センター跡地整備等について、移動市長室を利用して山口市よりの情報提供及び地元要望を共有しました。		
	評価	現状を周知できました。		
	今後に向けて	県と市との進捗状況に注意を払い、地域対応に努めます。県林業指導センター跡地利用についても県の動向に注意を払います。		

	事業名	クリーン作戦啓発事業	決算額	129,817円
②	目的	小中学校合同清掃作業をアピールし、町内会内での一斉清掃を推進し、不法投棄防止運動を幟旗設置等で推進します。		
	実施内容	10月を「宮野クリーン月間」と定め、全世帯にゴミ袋を配布するとともに、町内会単位での一斉清掃を推進しました。宮野小中学校による合同地域清掃作業に協力しました。地区一斉清掃を計画したが、前事業と時期がほぼ重複したので中止しました。不法投棄防止運動の一環として、常襲地帯への幟旗設置及びパトロールを継続実施します。		
	実施時期	クリーン月間取組期間:10月～11月 不法投棄防止運動及びパトロール;通年		
	参加人数	小中学校合同清掃作業:20人 町内会内での一斉清掃:23町内会 不法投棄防止運動:15人		
	成果	美化推進活動は、地域に概ね浸透しました。7月から11月末までに一斉清掃した町内会数:23町内会		
	評価	一斉清掃実施町内会数は、概ね目標を達成しましたが、不法投棄が絶えません。		
	今後に向けて	町内会一斉清掃を推進し、環境美化の意識向上を図るとともに、関係機関との連携及び不法投棄防止運動を広報し、不法投棄のない地域を目指します。		
	事業名	名所・旧跡等保全活動事業	決算額	390,490円
③	目的	名所・旧跡等の情報発信や風景カレンダーを全戸配布することで”宮野再発見”と”みやの愛”を深めます。		
	実施内容	「宮野名所・旧跡マップ」の増版(1,000部)や写真コンテスト応募写真を利用しての「2025 宮野の風景カレンダー」を7,500部作製し、全戸・関係機関に配布しました。		
	実施時期	10月～1月		
	参加人数	カレンダー配布:5600部配布 写真コンテスト応募:17人		
	成果	好評なカレンダーで、自然豊かな宮野の名所・旧跡を地区内外に周知することができました。名所・旧跡マップは、様々な活動で利用されています。		
	評価	ふるさと宮野に愛着が深まりました。		
	今後に向けて	風景カレンダーの作製・配布を継続することにより、「ふるさとみやの愛」を育みます。名所・旧跡の散策を推進します。		

重点的に取り組んだ事業(宮野)

○未来構想研究事業(県立大学南キャンパス跡地利用・県林業指導センター跡地)



移動市長室



新山口県宮野庁舎

○クリーン作戦啓発事業



宮野小中学校合同地域清掃



不法投棄防止幟旗設置

○名所・旧跡等保全活動事業



2025						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	



2025						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

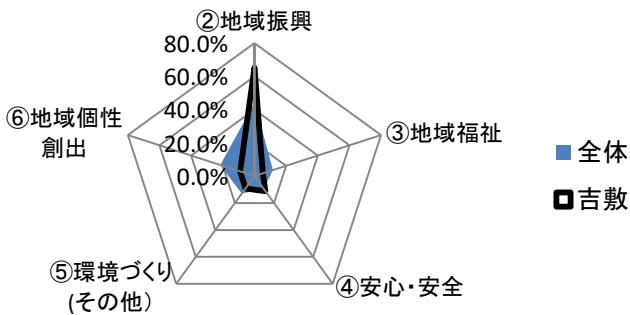
2025 宮野カレンダー

吉敷地区地域づくり協議会 地域づくり交付金事業概要(令和6年度)

■地域の情報

地域人口	14,518人	自治会数	16
世帯数	6,453世帯	自治会加入率	77.0%

※数値は、令和7年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分枠	9,914,000 円
交付金決算額	8,783,802 円
その他収入	3,655,809 円
交付金決算額／配分額	88.6%

各分野の決算

①協議会運営	8,107,515 円
②地域振興	2,826,257 円
③地域福祉	230,386 円
④安心・安全	484,088 円
⑤環境づくり(土木工事)	0 円
⑤環境づくり(その他)	399,805 円
⑥地域個性創出	391,560 円
決算総額	12,439,611 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

住民一人ひとりが主体的に地域の中でふれあい、ともに支え合う土壤をつくりあげていくことが重要であり、「若い世代とともに築く 笑顔あふれるふれあいのまち 吉敷」をスローガンに、次の5つの分野に地域課題を整理するとともに、地域としてこれから目指していく将来像を掲げ、課題解決に取り組んでいきます。

- 活動目標1「地域振興」ふれあいと交流による元気で住みよいまち
- 活動目標2「地域福祉」とともに支え合い心豊かに暮らせるまち
- 活動目標3「安心・安全」みんなで協力してつくる安全で安心なまち
- 活動目標4「環境づくり」美しい自然をみんなで守る快適なまち
- 活動目標5「地域個性創出」固有の歴史や文化による個性あふれるまち

■総括

「吉敷まちづくり計画」をもとに、課題解決に向け地域で活動している様々な団体や行政と連携しながらまちづくりに取り組みました。今年度は地域住民の協力のもと従前どおりの事業展開ができた年だったと思われます。「自分たちのまちは自分たちでつくる」という精神は、地域住民の皆さんのがまちづくりの気持ちの基本となっています。

その中でも、ふれあいと交流による元気で住みよいまちづくりを推進するために、「よしきフォトコンテスト」では、年を重ねるごとに応募作品の増加が見られるようになり、事業が定着してきたと感じることができました。また、様々な交流会はじめスポーツ事業や秋の祭り「吉敷ふるさとまつり」では、実行委員会メンバーにより、開催することができました。しかし事業のあり方や地域住民の関わり方には、新たな課題も見つかりました。課題に向き合い、地域住民の声を聞く機会を作りながらまちづくりに取り組みます。このように、地域住民や地域づくり関係団体の参画による実行委員会は、地域課題の解決に向けての話し合いの場となってきています。同様に、様々なスポーツ交流大会や、講演会なども従前どおり開催することができました。

また、高齢化の進展により免許証返納の動きが加速化することが見込まれ、自家用車に代わる移動手段の確保が地域住民の看過できない課題となっていることから取り組んでいるコミュニティタクシーは、実証運行を終了し、「吉敷地域コミュニティタクシー運行協議会」を設置し、本格運行を開始しました。特に利用促進を検討し取り組んできた成果が、利用者数の増加としてじわじわ現れてきています。また、運行に伴う、地域負担については、この事業が地域全体で取り組むことから、地域の商工会や該当町内会との連携により、協賛金を募ることも協議され、協賛金をいたただくこととなりました。

地域情報を広く地域住民に伝えるために、地域住民と地域づくり関係団体等からの参画を得て設立された広報委員会は、地域の情報の収集や発信に努めてきました。この間、地域広報紙やウェブサイトの充実に取り組むとともに、作る側と読む側の双方向で意見交換ができるコーナーを新たに設けるなど、広報紙を手に取っていただけるよう工夫を重ね、取り組みました。その結果全国の公民館報コンクールにおいて当地域の「ふるさとよしよしき」が金賞を受けることとなりました。

地域の史跡等の取り組みについては、栄華を極めた大内氏にゆかりのある肥中街道沿線の他地域との交流を図るとともに大内氏の歴史を知るバスツアーを計画・実行しました。地域の歴史を知るきっかけづくりにも取り組み、多くの地域住民の評価を得ました。

■分野別事業名

① 協議会運営	協議会運営
② 地域振興	ふれあいネットワーク、コミュニティタクシー運行事業、夏まつり・ふるさとまつり、よしきフォトコンテスト、人材発掘に向けた交流事業、広報活動、人権学習の推進、こどもドリームプロジェクト、ホタル観賞のタベ、動画による活動団体の紹介
③ 地域福祉	大運動会・多世代交流グラウンドゴルフ大会、えがお食堂よしき
④ 安心・安全	地域防災体制の充実、交通安全・防犯対策、反射鏡の充実、青少年の健全育成
⑤ 環境づくり	ホタル増殖・放流事業、環境づくり
⑥ 地域個性創出	文化振興

■重点的に取り組んだ事業

事業名	コミュニティタクシー運行事業	決算額	26,000円
目的	旧出張所・公民館跡地を積極的に活用するために、跡地を拠点としたコミュニティタクシーの運行に引き続き取り組み、高齢化社会に対応するふれあいと交流による元気で住みよいまちづくりを推進します。		
実施内容	旧出張所・公民館跡地を発着の拠点としたコミュニティタクシーの運行を実施し、高齢化社会に対応するふれあいと交流による元気で住みよいまちづくりを推進します。		
実施時期	通年		
参加人数	乗車人員 3,656人		
① 成果	高齢化の進展により、免許証返納の動きが加速化することから、自家用車に代わる移動手段としてコミュニティタクシー導入のための素地として、吉敷地域の実情に見合ったコミュニティタクシー実証運行協議会を立ち上げ、実証運行に取り組み、実証運行終了後は、本格運行協議会を設置し、本格運行に沿った運営を実施しました。本格運行に移行すると、地域負担が生じるため、関係者がコミタクの必要性について再確認するとともに、運営の継続のために協議を重ね、吉敷地域に沿った形を作りました。乗車率のアップについては、継続して取り組み、テレビ取材などを通して情報を地域に、広く周知する工夫をしながら、利用促進を図ることとしました。		
評価	跡地を発着の拠点としたコミュニティタクシーのルートに該当する町内会・自治会との連携を取りながら、本格運行に取り組みました。思わしくなかった乗車率も工夫を重ねるなど、乗車率のアップに取り組みました。その結果、少しづつ増加傾向がみられるようになりました。		
今後に向けて	運行協議会に、地域の商工会をメンバーに入れるなど、地域で取り組む事業として位置付けています。今後も事業が継続できるように、地域に沿った運営に取り組みます。事業費の3割が地域負担となる本格運行において、少しでも負担軽減になるよう引き続き、乗車率のアップには努めます。		

	事業名	地域食堂「えがお食堂よしき」	決算額	0円
②	目的	地域の子どもや保護者、高齢者など誰でも気軽に利用できる「地域食堂」を開設し、近年希薄となっている地域の住民同士の交流やふれあいの場を復活させ、子どもやひとり親世帯の親などが参加することにより地域の人たちと知り合い、ともに支え合い心豊かに暮らせるまちづくりを推進します。		
	実施内容	近年希薄となっている地域住民どうしの交流やふれあいの場を復活させ、ともに支え合い心豊かに暮らせるまちづくりを推進します。		
	実施時期	通年		
	参加人数	150人(限定配食) 40人(ボランティアスタッフ)		
	成果	明日花プロジェクトの支援により毎月第3土曜日に開催している。地域住民の好評を受けて、配食数を150食に限定し実施しました。当地域の事業目的が、地域食堂を通じて孤食を防ぎ、人材(ボランティアスタッフ)の発掘や育成、多くの地域住民が食事を通した交流を楽しむこととしていますが、来場者は食事と交流を楽しむことができました。		
	評価	今年度は、スタッフの協力も得ることができ、えがお食堂よしきが、ほぼ毎月実施する事ができました。実行委員会で検討し、配食数に制限を設け開催しました。スタッフも含め、食事に来られた地域住民の笑顔から交流の場の提供ができていると思われます。		
	今後に向けて	地域の温かい気持ち(募金、寄付など)から成り立つこの事業の意図が、無料の食堂として来場している人が多い中、どれだけ浸透しているか。その無料の食堂開設のために、毎月1ヶ月間ボランティアスタッフが活動する意味が見出せなくなる気持ちが大きくなっていることが課題となっていましたが、配食数を限定するなど工夫をしながら開催した。えがお食堂よしきの役員やボランティア関係者がこの事業の推進をすべきかどうか等も含め、協議・検討を進めています。		

	事業名	人材発掘に向けた交流事業	決算額	152,279円
	目的	地域づくりを担う新たな人材の発掘と育成を進め、ふれあいと交流による元気で住みよいまちづくりを推進します。		
	実施内容	地域の人材発掘のため地域交流センターと共に実施する交流事業について、地域づくり協議会はアクティブエイジを対象に、地域交流センターは若者を対象にした事業をそれぞれ担当し、実施に向けて協議しました。若者対象の事業については、地域内の田んぼで古代米を育てようという計画が実施されました。子どもたちが稻かりした古代米は地域のボランティアの方によっておにぎりになり皆で美味しく頂きました。アクティブエイジの交流会は、継続し開催することができました。計画策定時に「若者とともに築くまちづくり」を取り上げたことから、地域内の若者を発掘することを大きい目的としましたが、今年度も同様に、「近未来を語る」と題し、まちづくりと一緒に進めてい人材発掘の場としました。若い人たちの活動のきっかけや考え、地域に対する気持ちなどを、聞き、それを基に会場の参加者と意見交換をしながら進めました。まちづくりを進めていく人の年代が高くなる傾向にある現状ですが、交流会には、若い人も多く集まり、賑やかで和やかな交流会となりました。		
	実施時期	通年		
③	参加人数	50人		
	成果	交流事業は、地域づくり協議会と地域交流センターがそれぞれ「アクティブエイジ」「若者」と担当を持つこととし、それぞれが交流事業を開催することにしています。日々とどまることができない「地域づくり」には、常に地域内の人材発掘が重要そのため、この事業は大きい役目を持っていますが、「アクティブエイジの交流会」では、多くの若い人が集まり、賑やかに交流を楽しむことができました。また、その交流会では、現在地域づくりに関わっておられる若い人たちのセッション形式での意見交換を参加者が聞き、この事業をきっかけにして、一緒にまちづくりへの参画を考える人が増えることを期待しています。		
	評価	地域づくりを進めていくには、新たな人材を知ることが重要であり、そのきっかけとなる交流事業は地域づくりの中心的な事業の一つです。農業を体験しながら住民どうしの交流を促進する場を創出する企画については、運営スタッフにより協議しました。次年度も実施に向けた準備を進めるなど、一定の進捗がみられます。一方、アクティブエイジの交流会では、多世代の人が集まり、新しい交流会の形で進めることができ、和やかな雰囲気作りもでき、和やかに交流会をすることができました。新たな若い人の発掘は、各々が心に秘めたものがあったと感じられました。今後も継続し、楽しい交流会を工夫しながら開催し、若い人の発掘を試みたいと思います。		
	今後に向けて	引き続き地域交流センターと連携しながら、地域づくり協議会との事業整理、事業担当等を協議しながら、人材発掘と育成のための事業を進めていきます。		

重点的に取り組んだ事業(吉敷)

①コミタク制度の導入によるコミュニティタクシーの周知と利用促進

事業名:コミュニティタクシー運行事業



②誰もが集える場の提供による地域住民の交流と見守る関係づくりの促進

事業名: 地域食堂「えがお食堂よしき」



③交流会の開催による人材の発掘と育成

事業名:人材発掘に向けた交流事業(吉敷の近未来を想像し、語る交流会)

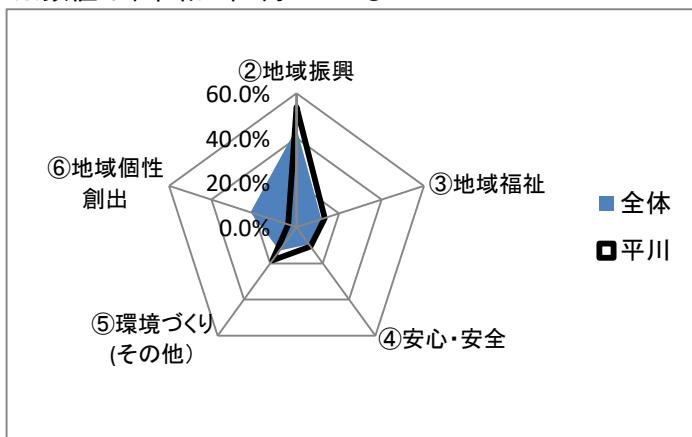


平川コミュニティ推進協議会 地域づくり交付金事業概要(令和6年度)

■地域の情報

地域人口	20,641人	自治会数	39
世帯数	11,851世帯	自治会加入率	34.5%

※数値は、令和7年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分枠	15,108,000 円
交付金決算額	14,356,827 円
その他収入	4,071 円
交付金決算額／配分額	95.0%

各分野の決算

①協議会運営	4,937,311 円
②地域振興	2,758,046 円
③地域福祉	680,850 円
④安心・安全	546,965 円
⑤環境づくり(土木工事)	4,302,000 円
⑤環境づくり(その他)	937,645 円
⑥地域個性創出	198,081 円
決算総額	14,360,898 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

これからも、安心と笑顔でずっと住みたい平川、戻ってきたい平川

■総括

地区民大運動会が雨天中止となつたが、夏の盆踊り大会や秋の平川まつり、年明けのどんど焼き等々各団体と連携して盛大に事業執行できた。今後とも地域の文化や伝統を絶やすことなく繋ぐとともに学園都市平川を活かした取り組みも推進していきたい。

■分野別事業名

① 協議会運営	事務局の運営
② 地域振興	地域振興行事の充実、つながるあいさつ運動、本物と触れ合う会、未来を拓く平川づくり、元気に育む子ども会、全員参加型地域にむけての交流強化、スポーツ交流、文化交流、平川体育行事、単位自治会自治振興補助事業、広報活動、平川地域での交通不便の解消、まちづくり5ヶ年計画の周知徹底
③ 地域福祉	高齢者福祉活動の支援、地域交流の場づくり、ウォーキング大会による健康づくりと交流、ボランティア組織等の活動を支援(創作とチャレンジ教室)、子育てクラブ等の支援、地域福祉活動計画の実施、高齢者の出席行事へのポイント制の導入の研究
④ 安心・安全	交通安全対策への取り組み、安心！見守り活動、自主防災組織の充実推進、道路安全施設の設置補修、子どもの見守り活動、あいさつ運動
⑤ 環境づくり	不法投棄撲滅運動、里山等整備、九田川の環境整備、休耕田の活用、防犯灯等電気代補助事業 防犯灯設置・維持管理、親子ふれあいクリーン作戦、法定外公共物等整備事業、環境整備に必要な資機材等の調達、道路河川環境美化事業
⑥ 地域個性創出	山大と地域のふれあい講座、どんど焼き、みんなで歩こう！峠越え、指導者の育成、審判講習、体動計体験、春の文化祭、文化連支援、郷土写真の展示

■重点的に取り組んだ事業

①	事業名	自主防災組織の充実推進	決算額	183,041円
	目的	防災意識の向上と地域住民とのつながり強化		
	実施内容	勉強会や研修会を実施しました。広報紙を発行し、梅雨時期や台風の対策を周知しました。		
	実施時期	5月～3月		
	参加人数	4, 500人		
	成果	広報紙発行(6月と9月)、情報伝達訓練を実施しました(5月)。自主防災委員を対象にした研修会を開きました(10月14日)。自主防災活動アンケート実施(3月)。		
	評価	地域防災の知識が向上するとともに、地区住民の防災に対する意識が高まりました。		
	今後に向けて	地域防災の強化を目指し引き続き勉強会の実施や広報をするとともに、防災士資格取得の支援をしていきます。		
②	事業名	親子ふれあいクリーン作戦	決算額	155,424円
	目的	親と子どものふれあう場の提供と地域の環境整備		
	実施内容	地域の河川、通学路の草刈りや植え込みの草取り、清掃を実施しました。		
	実施時期	5月(雨天中止)、10月のみ実施しました。		
	参加人数	1, 200人		
	成果	自治会、各団体、学校等が連携して地域を清掃しました。		
	評価	地域全体で取り組むことができ、きれいで安全な平川になりました。		
	今後に向けて	安全、防犯対策、環境への意識を高め清掃活動を続けます。		
③	事業名	つながるあいさつ運動	決算額	179,706円
	目的	住民の安全と防犯および住民と子どもたちのつながりの強化		
	実施内容	見守りを兼ねたあいさつ運動を展開しました。		
	実施時期	通年		
	参加人数	4, 000人		
	成果	学校や各団体に積極的に呼びかけ、児童・生徒の通学時間帯を中心見守りとあいさつの声かけを行いました。毎月3のつく日(3日、13日、23日)はあいさつの日として、児童・生徒・地域の人が横断幕と幟を持ち、通行する人にあいさつをしました。学校の行事や下校時刻が一目でわかるカレンダーを発行しました。		
	評価	学校と地域が連携して取り組めました。		
	今後に向けて	下校時の交通安全対策や地区住民同士の見守りも行っていきます。		

重点的に取り組んだ事業(平川)

○自主防災組織の充実推進



○親子ふれあいクリーン作戦



○つながるあいさつ運動

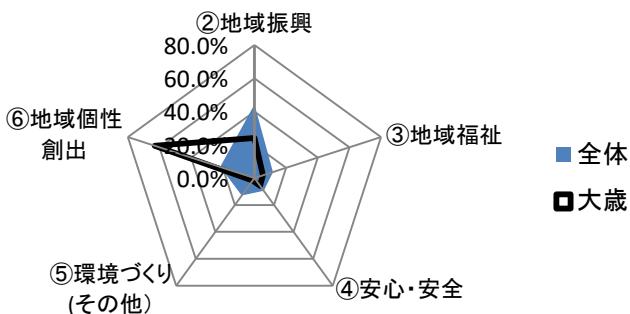


大歳まちづくり協議会 地域づくり交付金事業概要(令和6年度)

■地域の情報

地域人口	13,933人	自治会数	29
世帯数	7,021世帯	自治会加入率	55.2%

※数値は、令和7年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分枠	11,670,000 円
交付金決算額	10,805,085 円
その他収入	9,392 円
交付金決算額／配分額	92.6%

各分野の決算

①協議会運営	4,684,152 円
②地域振興	868,832 円
③地域福祉	193,102 円
④安心・安全	207,130 円
⑤環境づくり(土木工事)	2,525,676 円
⑤環境づくり(その他)	63,029 円
⑥地域個性創出	2,272,556 円
決算総額	10,814,477 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

基本方針 「みんなでつくろう、明るく住みよいおおとしを」 テーマに地域づくりを展開する。

■総括

基本方針に基づき、各種事業を展開している。コロナ禍で活動が停滞したまま現在に至る事業も見られたが、各部会や運営委員が連携し、概ね目標は達成できた。ただ、最近は、各関係団体の構成員の高齢化や若年世帯の自治会離れという問題が顕在化してきた。後継者の育成や地域の住民が生き生きと生活できる環境を整備していくことが必要と思われる。また、大歳地区にとって避けて通れない水害対策についても「自主防災」という意識の醸成が図られつつあり、引き続き啓発活動を推進する。

■分野別事業名

① 協議会運営	事務局長1名、事務員2名の事務局人件費及び事務費
② 地域振興	各自治会の活性化、地域情報の収集と発信、あいさつ運動の推進
③ 地域福祉	高齢者支援体制の充実
④ 安心・安全	生活安全(防犯)対策の充実、交通安全対策の充実、災害安全対策の充実、見守り体制の充実
⑤ 環境づくり	環境美化活動の推進、法定外公共物等の整備
⑥ 地域個性創出	自治会内の交流促進、地域内の交流促進、住民総参加による地域の活性化、ふるさと大歳の伝承、花いっぱいの大歳づくり、地域資源の活用、交流列車おおとし(大歳駅)の活用

■重点的に取り組んだ事業

①	事業名	自治会内の交流促進	決算額	876,207円
	目的	自治会内のふれあい事業を実施することにより地域の交流を深める。		
	実施内容	①1自治会1事業、②大歳地区一斉清掃、③三世代交流夏休みラジオ体操の実施		
	実施時期	①通年、②10月第3日曜日(10月20日)③夏休み		
	参加人数	①15自治会(823人)、②28自治会(2, 534人)、③12自治会(5, 441人)		
	成果	コロナが5類に移行したことで、活動再開自治会も増えてきており、自治会内での交流が再び活発化になってきている。		
	評価	コロナが5類に移行したことにより、1自治会1事業の開催及び地区内の一斉清掃、夏休みラジオ体操を実施する自治会数が少しずつではあるが元に戻ってきた。		
	今後に向けて	関連事業の未実施自治会に対し、自治会長会等で説明し、取り組みを促す。		
②	事業名	ふるさと大歳の伝承	決算額	64,913円
	目的	地域の担い手を発掘・育成するため、課題解決に向けてイベント等を実施する子どもたちを支援する。		
	実施内容	子どもが企画・プレゼンし、審査を受ける子どもイベントサポート事業を実施。		
	実施時期	審査8月。モルック作り10月。報告会12月。		
	参加人数	モルック作り17人。モルック大会45人。		
	成果	子ども達の企画力やプレゼン力が身に付いた。また、モノづくりの楽しさを実感した。		
	評価	地域の熟練者の存在を知ることができた。		
	今後に向けて	継続的に、自分たちで考え実行できる人材を養成する。		
③	事業名	地域資源の活用	決算額	49,983円
	目的	金山登山道の維持・管理		
	実施内容	金山を貴重な地域資源の一つとして位置づけ、登山道の開拓・整備を行い、健康増進や心身のリフレッシュに繋げた。		
	実施時期	通年。		
	参加人数	金山もりの会。登山者。		
	成果	令和6年度の鴻南中学校の卒業生が卒業登山を実施するなど、着実に利用者が増えており、利用者は地域の魅力を実感している。		
	評価	令和6年度の鴻南中学校の卒業生が卒業登山を実施するなど、着実に利用者が増えており、利用者は地域の魅力を実感している。		
	今後に向けて	登山がしやすいうように、休憩所の整備や歩きやすい歩道として整備する。		

重点的に取り組んだ事業(大歳)

○自治会内の交流促進



一斉清掃

○ふるさと大歳の伝承



モルックづくり

○金山登山道の維持・管理

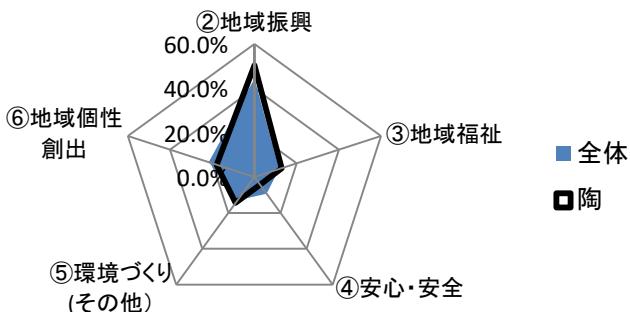


陶連合自治会 地域づくり交付金事業概要(令和6年度)

■地域の情報

地域人口	2,116人	自治会数	16
世帯数	920世帯	自治会加入率	71.1%

※数値は、令和7年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分枠	10,188,000 円
交付金決算額	10,188,000 円
その他収入	71,070 円
交付金決算額／配分額	100.0%

各分野の決算

①協議会運営	4,366,350 円
②地域振興	1,254,175 円
③地域福祉	321,580 円
④安心・安全	109,288 円
⑤環境づくり(土木工事)	3,403,000 円
⑤環境づくり(その他)	358,421 円
⑥地域個性創出	446,256 円
決算総額	10,259,070 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

第4次5か年計画の2年目となる今年は、昨年試みた若者を中心とした地域内の行事内容を今年も活かしながら、“笑顔でつながるふるさと陶”的なキヤッチフレーズのもと、様々な地域課題に積極的に取り組みます。

■総括

第4次陶地域づくり計画・陶地区福祉活動計画の2年目となり、コロナ禍の明けた昨年よりさらに、変革の年となつた。特に、「陶夏フェス」は、若者が何度も会議を重ね、開始時刻を昨年より2時間早め、地域の方々に長く楽しんで頂くことができた。また、「陶ふれあいまつり」は、まつりを盛り上げるために、オリジナルの提灯を100個作成し、会場の一体感が醸成された。陶中央部を清掃する年3回の「陶クリーン作戦」も、参加者の高齢化が進む中、地元企業や他国の研修生の参加を頂き、スムーズな清掃活動ができた。今後も、イベントについては、若者を中心にいろいろな意見を取り入れ、また「陶クリーン作戦」のように、高齢化が通になる行事については、安全に作業できるよう、作業内容の見直しを進めていく。

■分野別事業名

① 協議会運営	事務局の運営体制
② 地域振興	人材発掘、人材育成、広報活動の推進、ふれあい行事の見直し、活動グループの育成
③ 地域福祉	子育て支援の推進、小規模福祉の輪づくり、三世代交流の推進、地域福祉講座の開催、高齢者のサポート、交通弱者支援事業、健康管理活動・保健講座
④ 安心・安全	反射鏡設置・修復、空き家・空地の利活用、自主防災活動の推進、要援護者の支援、交通安全マナーアップinSUE
⑤ 環境づくり	土木工事:法定外公共物、陶クリーン作戦(道路環境美化)
⑥ 地域個性創出	再発見「素晴らしい陶」、陶ふるさと大学(史楽会)、文化財保護活動、陶ブランドの立ち上げ、地元文化育成、コミュニティ・スクールの支援

■重点的に取り組んだ事業

①	事業名	運動会・ふれあいまつり	決算額	357,159円
	目的	笑顔でつながるまち 陶の実現		
	実施内容	①陶地区民運動会 ・昨年度同様、競技を午前中に縮小して実施し、一部競技内容を変更。 ②陶ふれあいまつり ・秋吉台サファリランドより、小動物を誘致し、動物とのふれあいに大人も子供も楽しんだ。 ・まつりを盛り上げるために、オリジナルの提灯を100個作成し、会場の一体感が醸成された。		
	実施時期	①4月 ②11月		
	参加人数	①500人 ②1500人		
	成果	運動会は、時間短縮や新競技の導入で、より参加しやすくなった。ふれあいまつりは、若者の運営参加・発想で参加者も増え、イベントが盛り上がり非常に成果があった。		
	評価	「陶地区民運動会」は、時間短縮が高評価であった。「陶ふれあいまつり」は、若者を中心とした「陶のこれから部会」が各種イベントを企画することで、盛大に実施できた。		
	今後に向けて	次年度の開催に向けた各種会議において反省点を洗い出し、今後より良い行事になるよう努めていく。		
②	事業名	ふれあいウォーキング	決算額	9,377円
	目的	地区民の体力維持・向上		
	実施内容	地域内に約5kmの史跡巡りで体力の向上を図った。		
	実施時期	11月		
	参加人数	35名		
	成果	史跡巡りは、昨年より若干参加者が増えた。		
	評価	史跡巡りは、距離的に丁度よく体力向上に繋がった。		
	今後に向けて	今後も参加しやすい様に工夫し継続していく。		
③	事業名	陶クリーン作戦(道路環境美化)	決算額	358,421円
	目的	陶中央部の国道、県道、市道周辺や通学路の道路環境美化		
	実施内容	地区内の国道、県道周辺や通学路の環境美化、中央公園の清掃を実施した。		
	実施時期	7月、11月、2月		
	参加人数	501人		
	成果	今年度、プロワーとチェンソーを1台追加し、短時間で作業できるようになった。		
	評価	草刈り機で対応できない所を、チェンソーで安全かつ楽に作業できるようになった。		
	今後に向けて	年々高齢化が進むため、安全かつ楽に作業できるよう、機械化を進める。		

	事業名	文化財保護活動	決算額	10,775円	
	目的	文化財の保護活動を実施し、多くの方に陶の見聞を広めてもらう。			
	実施内容	陶陶窯跡周辺の清掃を地区の子供たちと文教部会で実施した。			
	実施時期	1月			
④	参加人数	24名(子供8名、大人16名)			
	成果	国指定の陶陶窯跡周辺を、地区の子供たちと一緒に清掃活動することにより、陶陶窯跡の歴史について大人と子供で共有できた。			
	評価	やまぐち21元気ミーティングで、陶陶窯跡の風化防止を取り上げた関係で、覆屋の改修や階段周辺の整備が施してあり、清掃が容易であった。			
	今後に向けて	異常気象が多発する昨今、維持管理が難しくなってきているが、劣化が進まないよう努めていく。			
	事業名	夏フェス	決算額	100,000円	
	目的	帰りたくなるまち 陶の実現			
	実施内容	若者が中心となり企画・運営を行い多くの来場者がイベントを実施した。			
⑤	実施時期	8月			
	参加人数	500人			
	成果	若者の発想で参加者も増え、イベントが盛り上がり非常に成果があった。 開始時間を2時間早めることで、地域の方々に長く楽しんでもらうことができた。			
	評価	地区内外からの多くの来場者で賑わった。			
	今後に向けて	今回のイベントの反省会を設け、今後より良い行事になるよう努める。			

重点的に取り組んだ事業(陶)

○運動会・ふれあいまつり



ふれあいまつり

○ふれあいウォーキング



○陶クリーン作戦(道路環境美化)



○文化財保護活動



○夏フェス

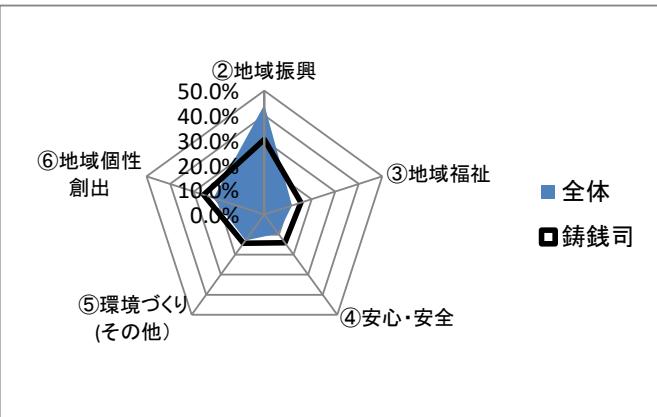


鋳銭司自治会 地域づくり交付金事業概要(令和6年度)

■地域の情報

地域人口	2,557人	自治会数	18
世帯数	831世帯	自治会加入率	86.9%

※数値は、令和7年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分枠	11,055,000 円
交付金決算額	11,031,000 円
その他収入	83,595 円
交付金決算額／配分額	99.8%

各分野の決算

①協議会運営	5,181,928 円
②地域振興	587,854 円
③地域福祉	300,205 円
④安心・安全	273,969 円
⑤環境づくり(土木工事)	3,993,000 円
⑤環境づくり(その他)	277,791 円
⑥地域個性創出	499,848 円
決算総額	11,114,595 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

「みんなでつくろう 明るい鋳銭司」をキャッチフレーズに、地域住民と各団体が協力して住みよい地域づくりを推進する。

■総括

第3次地域づくり5カ年計画の4年目であった。地区民体育祭、七夕まつり、ふるさと祭り及び新年互例会など、地区民が交流する事業を実施した。また、令和5年度に続きウォーキングの推進を継続実施できたことは、健康づくり事業の進め方として今後にはずみがついた。

■分野別事業名

① 協議会運営	事務局長給与、事務局員給与、事務費
② 地域振興	地域情報発信事業、地域振興・交流事業
③ 地域福祉	子ども教育・高齢者福祉関係事業、健康づくり事業
④ 安心・安全	防犯対策推進事業、防災活動推進事業、交通安全推進事業
⑤ 環境づくり	土木工事、環境美化運動事業
⑥ 地域個性創出	地域資源PR事業、伝統文化の継承事業、ふるさと歴史勉強会事業、周防鋳銭司遺跡発掘調査支援事業

■重点的に取り組んだ事業

①	事業名	健康づくり事業	決算額	50,514円
	目的	健康づくりを目的としたスポーツ交流の推進		
	実施内容	フレイル予防に向けたウォーキング実施		
	実施時期	3月～2月末		
	参加人数	約60人		
	成果	記録表に日々歩いた歩数を記入することにより運動量を実感でき、継続的な運動習慣を身に付けることにつながった。また、期間中の到達歩数によりくじ引きを行うことで、やる気を増進させた。		
	評価	ウォーキングによる運動機能の向上によりフレイル予防につながった。		
②	今後に向けて	ウォーキングの裾野を広げていき、地域の健康寿命を延ばす取り組みを行う。		
	事業名	環境美化事業	決算額	277,791円
	目的	長沢池周辺を地域内外の交流及び憩いの場として整備		
	実施内容	①松島(弁天社)の整備、大平山の桜等の自然環境保全 ②地域一斉清掃活動の推進 ③芝桜、フジバカマの管理など花づくり活動及び環境整備の推進		
	実施時期	①2月 ②11月 ③6、7、8、9、10、12、2月		
	参加人数	①10人 ②50人 ③延べ61人		
	成果	①松島の枯れ枝や枯葉の回収搬出を実施することで、快適な憩いの場となった。 ②通学路や歩道に放置されたゴミや空き缶等の回収を実施し、クリーンな地域づくりに貢献できた。 ③長沢池の芝桜や大平山のフジバカマ畠の草取り及び水やりと整地拡張及び周辺の伐採など大規模な整備を実施した。		
③	評価	①地域の憩いの場としての美化活動が継続できた。 ②地域の清掃活動を通して企業と地域住民との交流が図れた。 ③地域の憩いの場づくりを継続、拡大できた。		
	今後に向けて	鋳銭司を訪れる人々が「きれいで花を愛する地域」と感じてもらえ、また行ってみようと思ってもらえるように、美化活動・花のある地域づくり活動を継続する。		
	事業名	防災活動推進事業	決算額	46,129円
	目的	地域住民の安全確保のための防災意識の向上と避難行動の徹底		
	実施内容	①住宅用火災報知器の設置促進 ②防災訓練の実施 ③救命講習会の開催		
	実施時期	①8月～2月 ②10月 ③12月～2月		
	参加人数	①4軒 ②169人 ③延べ40人		
④	成果	大村区4集落の146人と現地対策本部の23人で合計169人が参加し、地震を想定した避難訓練を実施。その他の地区では情報伝達訓練を行った。		
	評価	単位自治会が主体的に地震についての災害想定を行い、緊急連絡網の整備や、連絡がつかなかつた世帯への安否確認、避難所への誘導など、各地区の実情に応じた防災訓練ができた。		
	今後に向けて	令和7年度今宿区、令和8年度鷹ノ子区、令和9年度和西区を避難対象にして実施する。		

重点的に取り組んだ事業(鋳銭司)

○健康づくり事業



○環境美化事業



芝桜植栽作業

フジバカマ畑整備作業

○防災活動推進事業



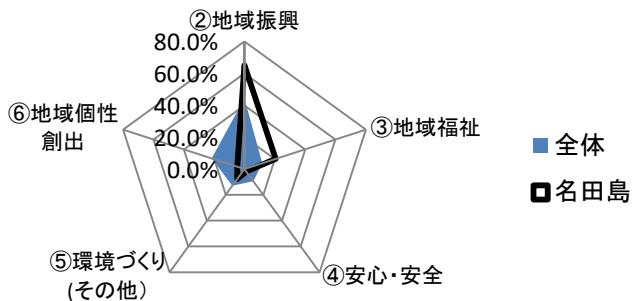
防災座談会

名田島自治会連合会 地域づくり交付金事業概要(令和6年度)

■地域の情報

地域人口	1,065人	自治会数	13
世帯数	459世帯	自治会加入率	89.1%

※数値は、令和7年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分枠	8,019,000 円
交付金決算額	8,019,000 円
その他収入	27,466 円
交付金決算額／配分額	100.0%

各分野の決算

①協議会運営	3,761,162 円
②地域振興	1,507,573 円
③地域福祉	475,718 円
④安心・安全	43,976 円
⑤環境づくり(土木工事)	1,969,000 円
⑤環境づくり(その他)	178,316 円
⑥地域個性創出	110,721 円
決算総額	8,046,466 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

地域住民及び各種団体が連携・協力して、第4次名田島地区協働まちづくり計画を推進します。

■総括

本年度からスタートした「第4次名田島地区協働まちづくり計画」は、第3次計画の活動目標と活動内容を大幅に見直し、さらに住民アンケートも実施して地域課題を再確認の上、具体的な活動内容は喫緊の課題を中心に取り上げて精選して作成したものである。令和6年度は、第3次計画からの継続事業を中心に実施したほか、市の定住促進事業の推進にも協力した。令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に変更され、令和6年度は、ほぼコロナ以前の実施内容で事業を行うことができた。「地区民体育大会」は「名田島田園運動大会」と改称して再開できた。夏以降に開催した「名田島ちょうちんちょこっとまつり」と「ふるさとまつり」も予想を超える多くの参加者を得ることができた。

■分野別事業名

① 協議会運営	事務局人件費(事務局長:1名 事務員:2名)
② 地域振興	一集落一事業、広報活動、イベント補助、第4次計画推進費
③ 地域福祉	健康増進活動補助、世代間交流、子ども健全育成事業補助
④ 安心・安全	地域防災活動の促進 交通安全対策
⑤ 環境づくり	土木工事(法定外公共物)、地域環境づくり、地域環境美化
⑥ 地域個性創出	ふるさと大学の開講 小学校芝生化グラウンドの利用促進事業

■重点的に取り組んだ事業

①	事業名	広報活動	決算額	587,363円
	目的	地域づくり活動、「第4次名田島地区協働のまちづくり計画」の進捗状況等、適時広報する。		
	実施内容	①総会資料 ②広報紙「田園」③「自治会連合会だより」による会議等の結果報告 ④ホームページの拡充・フェイスブックの定期的な更新 ⑤iPadを活用して名田島の姿をPR		
	実施時期	①4月 ②年3回(8月、12月、3月) ③毎月1回 ④⑤隨時		
	参加人数	地区内外多数		
	成果	①～③全世帯配付(約500戸) ④随時更新 ⑤随時使用		
	評価	①～③自治会連合会の活動状況を地区民に周知し情報共有に努めた。④⑤ホームページの拡充を図ると共に、フェイスブックにより地域のイベントや映えスポットをリアルタイムに発信し閲覧者の拡大に努めた。		
②	今後に向けて	更なる内容の充実に努め情報発信を図りたい。		
	事業名	名田島地区フトパスの構築	決算額	0円
	目的	名田島に新しい魅力を創出し地域の活性化を図り、地区内外の交流人口の増加を目指します。		
	実施内容	①フトパス「新開作・昭和コース」の新設に向けての試し歩きを実施 ②フトパス「向山コース」のイベント開催		
	実施時期	①12月8日 ②3月2日		
	参加人数	①生涯学習部会員 ②0人		
	成果	①アピールできる風景等、コース上の危険箇所等確認ができた。②雨天悪天候のため中止、後日、参加者へパンフレットを送付、次回の参加を文書で呼びかける		
③	評価	①パンフレット作成に向けて、問題点等整理ができた。②市報を活用しての参加者募集について、名田島以外の山口市民に呼びかけ25人の定員を超える希望者があつた。		
	今後に向けて	①6年度の取り組みをもとに「新開作・昭和コース」新設に取り組みたい。②既存の2コースのイベント開催に努める。		
	事業名	一集落一事業	決算額	138,326円
	目的	自治会活動の活性化を推進します。		
	実施内容	単位自治会の行う自主的な活動に対して、その経費の一部を助成する。		
	実施時期	7月～3月		
	参加人数	8集落自治会		
④	成果	集落における連帯感が生まれた。		
	評価	伝統行事等を通じて次世代に伝える事業が展開された。		
	今後に向けて	各集落自治会の事業促進を継続して図りたい。		

重点的に取り組んだ事業(名田島)

○広報活動



広報紙「田園」

ホームページ

○名田島地区フットパスの構築



新コース「新開作・昭和コース」試し歩き

○一集落一事業



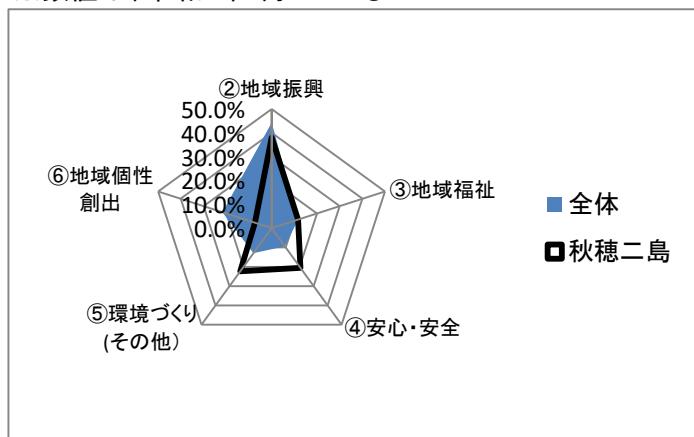
お地蔵様(お接待)

秋穂二島地区連合自治会 地域づくり交付金事業概要(令和6年度)

■地域の情報

地域人口	1,924人	自治会数	10
世帯数	856世帯	自治会加入率	90.7%

※数値は、令和7年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分枠	9,605,000 円
交付金決算額	8,845,187 円
その他収入	1,773 円
交付金決算額／配分額	92.1%

各分野の決算

①協議会運営	4,247,378 円
②地域振興	951,601 円
③地域福祉	292,062 円
④安心・安全	515,048 円
⑤環境づくり(土木工事)	2,100,000 円
⑤環境づくり(その他)	558,145 円
⑥地域個性創出	182,726 円
決算総額	8,846,960 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

「HOT愛を二島」(人づくり・オシリーワンづくり・トータル拠点づくり)に取り組み、理想郷「二島」を創造する。

■総括

「ふたじま祭り」ではステージ発表を再開して例年通りの開催となり、内容を工夫して開催でき、以前にも増した笑顔の交流が復活しました。また、別途補助金(未来づくり特別交付金)を活用した新たなハイキングコースの整備が整ったことから、臼美歩道と合わせた、屋外自然観光拠点になればと思います。

「HOT愛を二島」を理念に、地域づくり活動をより多くの住民に知っていただき、行事に進んで参加して頂けるよう、住民が協力し合い、助け合う地域づくりを進めていきます。

地域資源を活用する新たな事業の計画にも取り組んでいきます。

■分野別事業名

① 協議会運営	協議会運営
② 地域振興	地域活性化事業、サタデープラン活動推進事業、地域とともにある学校づくり支援、子ども会連活動事業、支援委員と学級児童の交流事業、講演会等定期開催、広報紙発行とSNSからの情報発信、自治会活動推進事業
③ 地域福祉	子育て支援活動事業、地域課題研究・研修、料理教室事業他、健康増進事業
④ 安心・安全	地域交通安全活動事業、地域防災活動推進、危険箇所看板・反射鏡設置、安心な地域活動の推進
⑤ 環境づくり	地区花いっぱい運動支援、環境整備事業、定住促進事業、清掃活動助成事業、土木工事
⑥ 地域個性創出	各地区開催活性化事業、兜山古墳整備事業

■重点的に取り組んだ事業

①	事業名	地域防災活動推進	決算額	381,123円
	目的	安心・安全な二島づくり		
	実施内容	①地域防災アドバイザーの育成と非常食の備蓄の拡充 ②山口県防災用VRの体験 ③炊き出し訓練(ふたじま祭りで配布) ④防災用デジタル無線の交信訓練		
	実施時期	通年		
	参加人数	炊き出し訓練配布数180名 VR体験者38人		
	成果	防災意識が高まった。非常時の連絡確認ができた。		
	評価	防災用VRの体験により、地域住民の津波の脅威の再確認ができた。 炊き出し訓練により、機器等の使用法など確認できた。		
	今後に向けて	防災講座、研修を実施し、全地区の自主防災組織の立ち上げを目指す。		
②	事業名	環境清掃事業	決算額	298,472円
	目的	きれいに住みよい二島づくり		
	実施内容	海岸清掃事業の実施、空き缶ひろいの実施		
	実施時期	通年		
	参加人数	清掃活動参加者述べ約500人		
	成果	海岸に漂着した流木の処理ができた。中学生によるオオキンケイギクの駆除を行った。		
	評価	中学生の参加により、環境美化意識の向上が図れた		
	今後に向けて	引き続き環境整備活動を行っていく。		
③	事業名	子育て支援活動事業	決算額	122,310円
	目的	健康で元気な二島づくり(子育て支援事業)		
	実施内容	子ども広場・クリスマス会を実施し、あわせて「おやカフェ」を開催した。		
	実施時期	12月		
	参加人数	30人		
	成果	親子がゆっくりできる時間帯ができたことで、更なる子育ての拡充が図れた。		
	評価	同世代の親子の参加でつながりができた。		
	今後に向けて	各種イベントの開催や利用者のニーズにあった交流事業を企画していきたい。		

重点的に取り組んだ事業(秋穂二島)

○地域防災活動推進



○環境清掃事業



○子育て支援活動事業

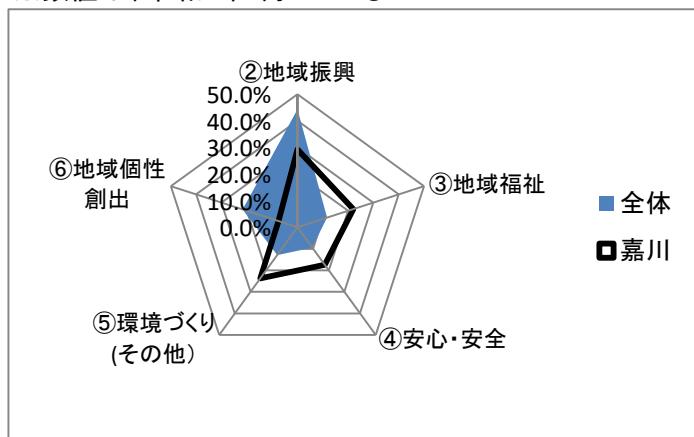


嘉川自治連合会 地域づくり交付金事業概要(令和6年度)

■地域の情報

地域人口	6,907人	自治会数	39
世帯数	2,903世帯	自治会加入率	81.2%

※数値は、令和7年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分枠	12,788,000 円
交付金決算額	12,788,000 円
その他収入	203,408 円
交付金決算額／配分額	100.0%

各分野の決算

①協議会運営	4,805,408 円
②地域振興	1,090,864 円
③地域福祉	823,158 円
④安心・安全	650,280 円
⑤環境づくり(土木工事)	4,456,000 円
⑤環境づくり(その他)	885,145 円
⑥地域個性創出	280,553 円
決算総額	12,991,408 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

嘉川の魅力を活かした 元気で楽しく住みたいまちづくり

■総括

第3期嘉川地域づくり計画の5年目の今年は、ふるさと嘉川の酒「嘉穂の郷」づくりが15周年を迎え、本郷地区の里山づくりを本格的に展開する年となるなど、節目の年となった。

第3期嘉川地域づくり計画の最終年度にあたり、次期計画策定に向けて、各事業の進捗状況を検証しながら、第4期計画の策定作業を進めてきた。

■分野別事業名

① 協議会運営	事務局人件費、事務費
② 地域振興	ふれあい交流、嘉川の情報発信
③ 地域福祉	すこやか子ども未来、みんなで健康長寿、楽しい健康ライフ、がんばる人づくり
④ 安心・安全	みんなで安心防災
⑤ 環境づくり	美しい環境づくり、優しい交通ネット、公共インフラ整備
⑥ 地域個性創出	嘉川らしいまちづくり、歴史文化の伝承

■重点的に取り組んだ事業

	事業名	美しい環境づくり	決算額	835,145円	
	目的	本郷地区の里山づくりを本格的に展開するため、本郷里山自然公園の活動拠点施設に関する整備を実施する。			
	実施内容	(実施内容) 本郷地区の里山づくりをはじめ、まちじゅう花いっぱい活動や清掃活動を行った。			
	実施時期	(実施時期) 通年			
	参加人数	(参加人数) 本郷里山イベント(3月9日)40人その他草刈り等有志多数、 花いっぱい活動22自治会、嘉川清掃の日参加171人			
①	成果	(成果) 里山づくりについて、平原岳の登山道本郷出葉ルートを開通させた。本郷里山自然公園の活動拠点施設の整備に関して、古民家の補修について検討した。 まちじゅう花いっぱい活動では、山口市花いっぱい運動花壇コンクールにおいて、嘉川地区から推薦した高見子ども会が最高位のモデル賞を受賞した。 清掃活動については、嘉川清掃の日に毎年ゴミ拾い大作戦を行う3地点のうち2地点でゴミの量が減少してきた。			
	評価	(評価) 本郷里山自然公園について、公園整備に欠かせない維持管理活動や遊休地活用へ取り組んだ。また、活動拠点施設の整備に関して物件持主の同意を得られるなど、少しずつではあるが構想が前進している。 まちじゅう花いっぱい活動については、子どもの数の減少に伴い子ども会を解散する自治会もあり、やり方の工夫が必要である。 清掃活動については、従来からの懸案である今坂駐車場のゴミ問題が一向に解決しない。			
	今後に向けて	(今後に向けて) 里山資源を守り、活用を図る里山づくりを推進する。 嘉川地区花いっぱい運動花壇コンクールについて、子ども会だけではなく新たに自治会のコンクールも企画する。			

	事業名	嘉川らしいまちづくり	決算額	220,553円
	目的	ふるさと嘉川の酒「嘉穂の郷」づくりが15年目を迎えることから、15周年記念行事を開催する。		
②	実施内容	(実施内容) 嘉川の地酒「嘉穂の郷」(15周年)に使う酒米の稻刈り体験(田植え体験は雨天中止)に加え、記念蔵出発表会・祈願酒企画を実施し特産品のPRに努めた。 地産料理の開発を試み、Kagawa Market 等で発表するとともに、小中学生の食育学習を実施した。		
	実施時期	(実施時期) 10/6 稲刈り		
	参加人数	12/15 15周年記念蔵出発表会・祈願酒企画 適宜 食育学習		
		(参加人数) 稻刈り 約140名、蔵出発表会 約130名、食育 425名、 Kagawa Market 1回約50名/6回開催		
	成果	(成果) 15周年記念イベントは、地域の幅広い年齢層の多くの参加者、準備段階でも多くの協力を得た。		
	評価	(評価) 稻刈り体験は、小さな子どもたちも親子で多数参加してもらえた。		
	今後に向けて	(今後に向けて) 今後も継続して実施していく。		
	事業名	楽しい健康ライフ	決算額	230,912円
	目的	自然と触れ合える場所で「体力＆免疫力アップ」に取組む元気あっぷチャレンジに関し、海の要素を組み込んだ新企画を実施する。		
③	実施内容	(実施内容) 健康の増進を図り、スポーツによる交流により、元気な健康ライフを支援した。具体的には、元気あっぷチャレンジの開催と併せて、スポーツ用品の貸出やラジオ体操等で健康づくりを行う団体へ補助金を交付した。		
	実施時期	(実施時期) 令和6年7月～令和7年2月		
	参加人数	(参加人数) 元気あっぷチャレンジ 32人×4回=128人		
	成果	(成果) 参加者が増加した。(1回当たりの平均参加者去年25人) 子ども会やサロン等でのスポーツ交流で、スポーツ用品の貸出しが増えた。		
	評価	(評価) 健康意識が高まり、日常生活の改善に目を向けるようになった。		
	今後に向けて	(今後に向けて) 地域資源を活かした活動を企画し、参加者がより健康を意識して日常生活が営まれるよう企画を工夫していく。		

重点的に取り組んだ事業(嘉川)

○美しい環境づくり



○嘉川らしいまちづくり



○楽しい健康ライフ

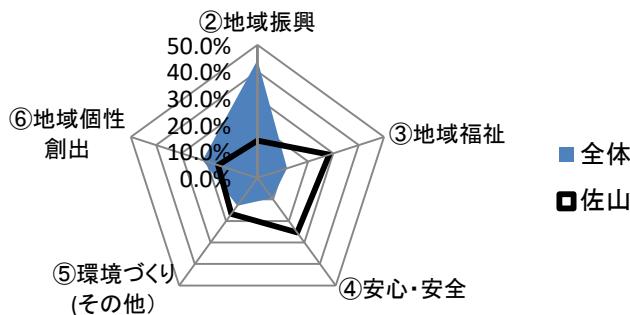


佐山地区地域づくり協議会 地域づくり交付金事業概要(令和6年度)

■地域の情報

地域人口	2,512人	自治会数	11
世帯数	1,024世帯	自治会加入率	84.3%

※数値は、令和7年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分枠	9,578,000 円
交付金決算額	8,119,991 円
その他収入	2,246 円
交付金決算額／配分額	84.8%

各分野の決算

①協議会運営	3,959,276 円
②地域振興	420,380 円
③地域福祉	850,625 円
④安心・安全	759,447 円
⑤環境づくり(土木工事)	1,165,000 円
⑤環境づくり(その他)	501,139 円
⑥地域個性創出	466,370 円
決算総額	8,122,237 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

地域の住民や各種団体等が相互に協力・連携することにより、コミュニティ意識を高め、地域全体で課題の解決に取り組み、安心して暮らせる地域づくりを目指します。

■総括

今後も、行政や地域団体等と連携しながら、佐山の暮らしを良くするための「第4次佐山地区地域づくり・福祉活動計画(令和4～8年度)」を地域全体で着実に実行することで、子どもから大人までの幅広い年齢層の交流を図り、地域の中で人と人をつなぎ、安全安心で住みやすい地域をつくります。

■分野別事業名

① 協議会運営	協議会及び事務局の運営
② 地域振興	地域づくり協議会だより発行事業、地域活性化交流活動推進事業、地域振興活動推進事業
③ 地域福祉	買物・病院便運行事業、健康づくり活動推進事業
④ 安心・安全	自主防災組織基盤強化事業、子ども見守り事業、交通安全対策事業
⑤ 環境づくり	土木工事(法定外公共物)、フラワーロード花壇整備事業、地域環境整備事業
⑥ 地域個性創出	フラワーロード研修・交流広場整備事業、地域イベント開催支援事業

■重点的に取り組んだ事業

	事業名	自主防災組織基盤強化事業	決算額	702,827円
	目的	自主防災組織の基盤強化を図ります。		
	実施内容	自主防災会の「防災先進地視察研修」やトランシーバー交信訓練、小学4年生の「防災体験学習」の実施、災害用資機材の点検・備蓄管理等により、地域内の防災意識及び防災組織力のさらなる向上を図りました。		
	実施時期	令和6年6月2日、9月17日、11月23日24日、令和7年1月26日		
	参加人数	155人		
①	成果	自主防災会本部や各地区の防災リーダーを中心に、「防災先進地視察研修」を実施したこと、地震や洪水、火災等の模擬体験を通して、改めて早めの避難の重要性を認識するとともに、防災に対する知識や行動力を身につけることができました。また、小学4年生を対象として、紙芝居やDVDを使って説明したり、非常食その他防災用品を展示したりと、わかりやすい「防災体験学習」を実施することで、子どもたちに防災への興味を持たせることができました。さらに交流センターの避難訓練に合わせて、小学生に消火器(訓練用)を実際に使うことで、初期消火のやり方を体験してもらいました。 なお、今年度は阿東の防災会が研修視察に来られたため、その受け入れ研修会も開催しております。		
	評価	先進地視察研修により防災対策への取り組みを再確認されたと考えます。また例年、小学生への体験学習をすることにより、世代を超えた防災意識の共有も図れました。さらに日々研鑽したことを阿東からの研修視察で発表することができ、受け入れ側にとっても、士気の向上につながりました。		
	今後に向けて	今後も、自治会や行政と連携しながら、「総合防災避難訓練」や「トランシーバー交信訓練」、災害の種類や対象者に応じた、「防災先進地視察研修」や「防災体験学習」を継続し、地域住民の自主防災意識を高め、災害に強い組織づくりを図ります。		
	事業名	フラワーロード花壇整備事業	決算額	304,639円
	目的	地域内の環境美化と、世代間の交流を図ります。		
	実施内容	「フラワーロード佐山」を中心に、国道190号線沿いの花壇づくりや、小学3年生への「花の植え付け体験」を行いました。		
	実施時期	通年		
	参加人数	218人		
②	成果	佐山の玄関口となる国道190号線沿いの「フラワーロード佐山」の花壇に、ポーチュラ力約600本、赤や青のビオラ約1500本、赤や白の芝桜約1000本ほど植え付けることで、道行く車両の方々に美しい風景を提供することができました。 また、今年度も小学3年生の環境学習として「花の植え付け体験」を実施し、実際に子どもたちと「フラワーロード佐山」の花壇づくりと一緒にやることで、環境美化への意識付けをすることができました。		
	評価	佐山の玄関口として、手入れの行き届いた立派な花壇です。小学生に対しても花壇づくりという体験を通して、環境美化に併せて、副次的に植栽のおもしろさを学べたのではないかと思慮します。		
	今後に向けて	今後も、「子どもたちの植え付け体験」を継続し、地域内の環境美化と、世代間交流の場となる花壇づくりを行います。		

③	事業名	買物・病院便運行事業	決算額	818,320円
	目的	交通弱者の日常生活を支える交通手段を確保します。		
	実施内容	コミュニティタクシーと連携して、地域外(阿知須)への「買物・病院便」を週3回運行し、地域内の交通弱者の日常生活を支援しました。		
	実施時期	週3回(月・水・金)		
	参加人数	1,150人(利用者)		
	成果	阿知須方面への「買物・病院便」の運行により、交通弱者への生活支援と、コミュニティタクシーのさらなる充実を図ることができました。		
	評価	ここ数年、おおよそ15人/日となだらかに推移しており、定期的な常用者が見込まれ、地域の足として認知されているものと推察する。交通弱者への支援として確実に浸透しているものと思われる。		
	今後に向けて	今後も、コミュニティタクシーを活用した地域外への運行を継続し、交通弱者の日常生活を支える交通手段を確保します。		

重点的に取り組んだ事業(佐山)

○自主防災組織基盤強化事業



○フラワーロード花壇整備事業



○地域内交通弱者への生活支援強化



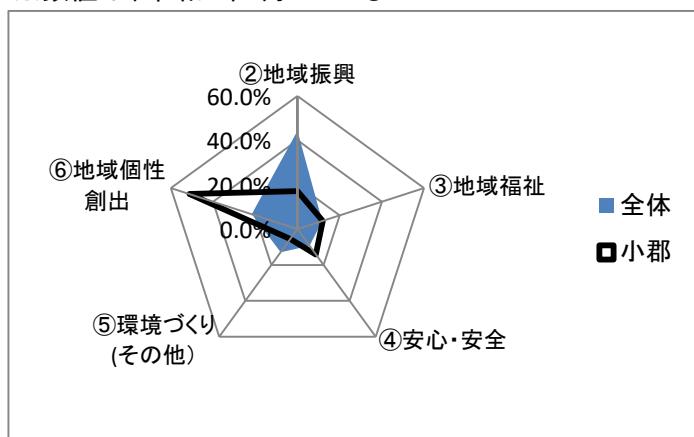
買物・病院便運行事業

おごおり地域づくり協議会 地域づくり交付金事業概要(令和6年度)

■地域の情報

地域人口	25,882人	自治会数	64
世帯数	12,598世帯	自治会加入率	70.2%

※数値は、令和7年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分枠	12,814,000 円
交付金決算額	12,814,000 円
その他収入	641,753 円
交付金決算額／配分額	100.0%

各分野の決算

①協議会運営	6,112,414 円
②地域振興	1,257,173 円
③地域福祉	882,464 円
④安心・安全	1,041,385 円
⑤環境づくり(土木工事)	0 円
⑤環境づくり(その他)	401,474 円
⑥地域個性創出	3,760,843 円
決算総額	13,455,753 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

「出会い」「つながり」共に支え合うまちづくり ~心つながる笑顔と幸せあふれるまち~

■総括

第3次地域づくり計画4年目として、区分に沿って「地域振興部会」「地域個性部会」「地域福祉部会」「安心安全部会」「環境づくり部会」の5部会と各種実行委員会で目的達成に向け活動を行なった。幅広い世代の意見を集約し特に若者の担い手作りに力を入れ、多様な住民のニーズや課題解決に向けまちづくりを進めた。スローガンである「心つながる笑顔と幸せあふれるまち」を目指し、自治会や団体、各種学校、行政そして企業とも連携協力し、魅力ある交流の場を創生し地域資源を活かしたまちづくり並びに、若者や子育て世代の支援事業等にも積極的に取り組んだ。また、関係人口の創出を推進し安心安全でみんなが笑顔で心豊かに住み続けられる地域社会を目指して、地域の一体感の醸成と、若者世代の活躍の場の創生を進めた。

■分野別事業名

① 協議会運営	協議会運営費
② 地域振興	「SLのまち」の推進／若者とともにつくるまちづくり／楽市楽座の開設
③ 地域福祉	健康づくり、体力づくりの推進／困ったときにお互いが助け合えるまちづくり／子育て世代の交流の場づくり
④ 安心・安全	地域防災力の向上と防災減災活動の推進／交通安全意識の啓発／犯罪のないまちづくり
⑤ 環境づくり	美しい、住みよいまちづくり／親子でふれあえる公園づくり
⑥ 地域個性創出	小郡ブランドをつくる／多様な地域資源の発掘／賑わい創出に向けた意見集約と情報発信

■重点的に取り組んだ事業

①	事業名	お互いが助け合えるまちづくり	決算額	468,219円
	目的	お互いに助け合い、高齢者から子どもまでみんなが住みよいまちづくりの推進		
	実施内容	便利マップ作成、大切な私を育てる、認知症予防研修、ほか		
	実施時期	年間を通して		
	参加人数	300名		
	成果	便利マップ作成。3小学校との共催、健康まつりへの参画で助け合えるまちづくりの推進。		
	評価	困りごとなどに役立つ便利マップの作成により高齢者等弱者の手助けとなった。地域内に助け合い精神が芽生え、支え合い活動協議会立上げにも寄与した		
	今後に向けて	互いに支え合える健康的なまちづくりを進める		
②	事業名	楽市楽座の開設	決算額	663, 181円
	目的	新山口駅を中心に地域振興と交流人口の創出		
	実施内容	小郡一直線まつり、スパイミッション、ほか		
	実施時期	10月12日、1月18日 ほか		
	参加人数	2, 000名		
	成果	新山口駅前広場やKDDI維新ホールを活用して駅周辺の活性化に寄与した		
	評価	交流人口の創出に加え、関係人口創出にも繋がった。		
	今後に向けて	観光客の玄関口に相応しい拠点となるようつなげ、子どもの居場所づくりを検討していく		
③	事業名	美しい、住みよいまちづくり	決算額	296, 474円
	目的	地域の環境美化を通して住みよいまちづくりの推進		
	実施内容	清掃ウォーキング、ごみゼロゼロ作戦、スポごみ、SDGsのディキャンプ、ほか		
	実施時期	年間を通して		
	参加人数	500名		
	成果	学校や企業、地域と共に連携して環境美化活動を行いSDGsを広く周知した		
	評価	天候に左右され、一部中止となったのは残念だが、概ね環境美化に繋がった。		
	今後に向けて	子どもから高齢者までが楽しんで環境を考える企画で、行政や企業、学校と協働で環境美化を進める		

重点的に取り組んだ事業(小郡)

○お互いが助け合えるまちづくり



便利マップ

○楽市楽座の開設



一直線まつり

○美しい、住みよいまちづくり



SDGs 防災キャンプ



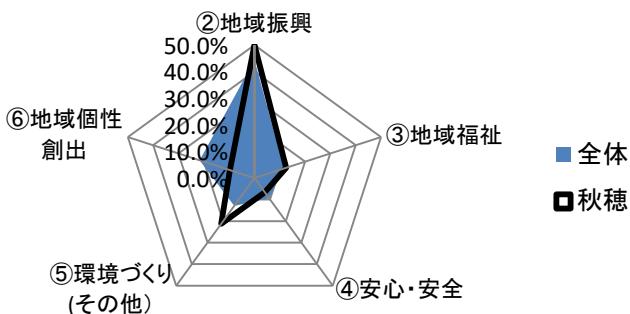
スポごみ

たのSEA秋穂づくり協議会 地域づくり交付金事業概要(令和6年度)

■地域の情報

地域人口	5,599人	自治会数	32
世帯数	2,439世帯	自治会加入率	87.3%

※数値は、令和7年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分枠	8,318,000 円
交付金決算額	8,318,000 円
その他収入	2,691,965 円
交付金決算額／配分額	100.0%

各分野の決算

①協議会運営	6,186,917 円
②地域振興	2,411,499 円
③地域福祉	604,298 円
④安心・安全	316,284 円
⑤環境づくり(土木工事)	0 円
⑤環境づくり(その他)	1,025,048 円
⑥地域個性創出	465,919 円
決算総額	11,009,965 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

秋穂地域の豊かな自然や歴史・文化の承継と安心・安全で住みやすい「笑顔あふれる ふるさと秋穂」づくりを推進します。

■総括

第3次地域づくり5ヵ年計画の4年度として、令和6年度の事業展開を行った。

今年度は、通常開催となった「第40回あいお祭り」を始め、各部会においても住民参加型のニュースポーツや様々な講座の開催、地域文化・資源の保存継承など、多岐にわたって行うことができた。部会員を始めとした地域の皆さんには、一つ一つの事業に様々な協力をいただき、改めて人ととの交流の有難さ、ふれあうことの大切さを感じた一年だった。

■分野別事業名

① 協議会運営	事務局人件費、事務費、広報活動費
② 地域振興	きずなづくりとスポーツ推進、地域の活性化、人材の育成と発掘
③ 地域福祉	思いやりのまちづくり推進、すこやか秋穂っ子育成、健康づくり推進
④ 安心・安全	防災意識の啓発、交通安全啓発活動の推進、防犯活動の推進
⑤ 環境づくり	きれいなまちづくりの推進、草山公園の環境整備、道路維持活動助成事業
⑥ 地域個性創出	歴史的・文化的資産の発掘と伝承、海・山・里の活用 地域のオリジナリティの発掘と発信

■重点的に取り組んだ事業

①	事業名	草山灯台秋穂湾岸ウォーキング	決算額	24,653円
	目的	ニュースポーツの普及活動や秋穂の資源を活用したイベント開催と地域活性化の推進		
	実施内容	地域資源の草山灯台を活用した事業。秋穂地域外の参加者も積極的に募り、地域内外の交流を図る。草山灯台やコース内の桜、自然を鑑賞しながら約10kmのウォーキングを実施。		
	実施時期	令和7年3月9日(日)		
	参加人数	41人		
	成果	磯の香公園をスタートし、秋穂湾を右手に見ながら草山灯台を目指してウォーキングを実施。秋穂地域外から30名の参加があり、参加者同士で交流を深めることができた。		
	評価	参加者からも大変好評を得ることができた。		
	今後に向けて	次年度も継続して実施する。		
②	事業名	健康づくりの推進	決算額	59,310円
	目的	地域住民の健康づくり支援・推進		
	実施内容	秋穂保健センターとの共催による健康づくり講座、ウォーキング講座を開催		
	実施時期	令和6年7月18日(木)、令和6年9月4日(水)、令和6年11月28日(木)		
	参加人数	90人		
	成果	ロコモ予防の講話と栄養に関する健康づくり講座を2回、約2kmのウォーキングを1回実施し、参加者へ健康づくりのサポートができた。		
	評価	参加者からも大変好評を得ることができた。		
	今後に向けて	次年度も健康づくり啓発事業を継続する。		
③	事業名	防犯啓発活動の推進	決算額	36,784円
	目的	防犯対策、防犯意識の向上		
	実施内容	高齢者を対象とした、うそ電話詐欺や悪質商法に遭わないためのセーフティライフセミナーを開催。また、地域内の小学4年生に防犯ブザーを提供。		
	実施時期	令和6年6月12日(水)		
	参加人数	27人		
	成果	様々な手口の詐欺犯罪を知ることが自分の身を守るために重要であることを認識することができた。		
	評価	参加者からも大変好評を得ることができた。		
	今後に向けて	次年度も継続して実施する。		

重点的に取り組んだ事業(秋穂)

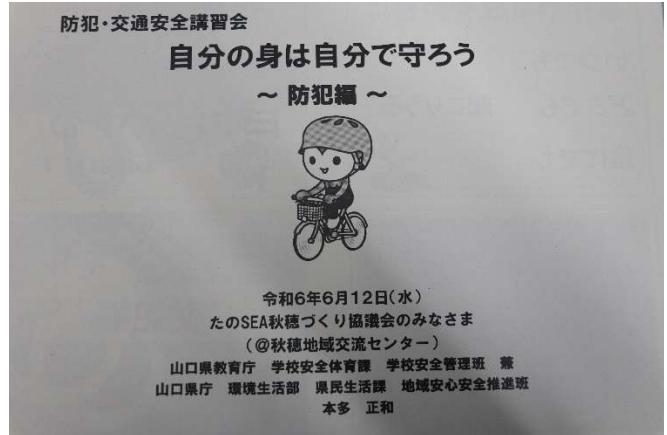
○「草山灯台秋穂湾岸ウォーキング」（令和7年3月9日(日)実施）



○「健康づくりの推進」(令和6年7月18日(木)、9月4日(水)、11月28日(木)実施)



○「防犯啓発活動の推進」（令和6年6月12日(水)開催）

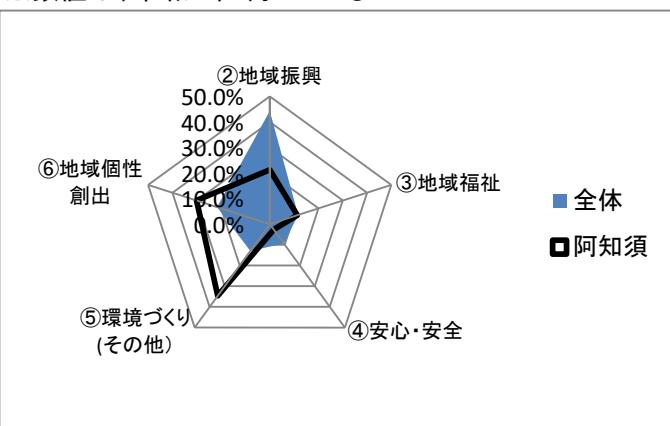


阿知須地域づくり協議会 地域づくり交付金事業概要(令和6年度)

■地域の情報

地域人口	9,214人	自治会数	31
世帯数	3,783世帯	自治会加入率	73.9%

※数値は、令和7年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分枠	11,882,000 円
交付金決算額	11,882,000 円
その他収入	316,588 円
交付金決算額／配分額	100.0%

各分野の決算

①協議会運営	4,506,386 円
②地域振興	1,022,910 円
③地域福祉	545,282 円
④安心・安全	127,474 円
⑤環境づくり(土木工事)	2,889,000 円
⑤環境づくり(その他)	1,662,647 円
⑥地域個性創出	1,444,889 円
決算総額	12,198,588 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

支えあう心 住みつづけたいまち あじす

■総括

第3次阿知須地域づくり計画策定後4年が経過した令和6年度も、地域の誰もが住んでよかったです、これからも地域に住み続けたいと思えるような地域づくりを目標とし、地域づくり協議会の3つの事業部会(地域振興・地域個性創出部会、環境づくり部会、地域福祉・安心安全部会)で地域の課題解決に向けた様々な事業・活動を企画し取り組んだ。その中で、地域づくりの主役は地域の皆一人一人であることから、この主役となる担い手確保と育成の必要性を強く感じ今後も大きなテーマとして取り組みたい。

■分野別事業名

① 協議会運営	協議会運営
② 地域振興	人権教育推進支援、生涯学習・スポーツ支援、人材育成、情報発信、食と農の関係づくり
③ 地域福祉	子育て支援、健康づくり推進支援、青少年健全育成、高齢者対策
④ 安心・安全	地域防災意識向上、メール配信、土木工事
⑤ 環境づくり	環境美化推進、地域内観光資源整備
⑥ 地域個性創出	あじす発信イベント支援、文化を守り継承発展させる支援、文化を高める支援、地域を元気にする支援

■重点的に取り組んだ事業

	事業名	人材育成	決算額	181,580円
①	目的	「みんなが主役元気のあるまちをめざして」		
	実施内容	阿知須まちづくり応援事業実施団体支援(2団体) 引野同志会(六畳岩の歩道整備(草刈り及び木の伐採)、童謡・唱歌を歌い継ぐ会 地域を支える人材確保のための学習活動の一環としてAJISUカレッジの開催		
	実施時期	令和6年4月1日～令和7年3月31日		
	参加人数	600人		
	成果	応援事業の取り組みなど、元気なまちづくり推進のための事業に多くの住民の参加があった。		
	評価	地域における人づくりを基本とし、そこから交流のまちづくりへと期待が出来る。		
	今後に向けて	人づくりを地域づくり協議会の重要課題として取り組む。		
②	事業名	地域防災意識向上	決算額	61,474円
	目的	「だれもが安心安全で住みよいまちづくりのために」		
	実施内容	地域防災リーダー養成講座開催		
	実施時期	令和7年2月18日・3月1日 2回		
	参加人数	地域防災リーダー養成講座2回(77人)		
	成果	地域リーダー養成講座の開設で、地域の防災力向上のため各単位自治会での災害時要支援者の避難支援のしくみを自治会内で構築するため災害図上訓練(DIG)の取り組み機運が高まりつつある。 その他の事業 3月15日 普通救命講習会(16人参加)		
	評価	講座を通して地域防災について意識を高めると共に、災害時の対応について実技を通して学ぶことができた。		
	今後に向けて	地域内防災力向上のため、各自治会での防災活動が積極的に取り組めるよう支援していく。		
③	事業名	地域内観光資源整備	決算額	1,301,447円
	目的	「みんなで創るきれいなまちをめざして」		
	実施内容	あじすふるさとの丘公園への取り組み(竹藪伐採で環境整備、桜園の草刈り、アジサイ道路(遊歩道)の管理、整備、竹粉碎機の活用と、粉碎機で生成した竹粉の活用、花壇の整備) 六畳岩二千年回道発信のため遊歩道マップ制作配布(1,000枚)、貝殻山からの眺望景観(パノラマ)案内看板制作設置		
	実施時期	令和6年4月1日～令和7年3月31日		
	参加人数	250人		
	成果	地域の自然環境を活かしながら、交流のまちを目指す事業・活動として地域の皆が着目するようになった。		
	評価	季節ごとの人の訪れも多くなり、地域の自然を活かし交流のまちを目指す目標意識が高まってきた。		
	今後に向けて	今後もあじすのふるさとの丘公園への取り組みを進めていく。		

重点的に取り組んだ事業(阿知須)

○人材育成事業



Ajisus カレッジ

○地域防災意識向上事業



防災講座

○地域内観光資源整備事業



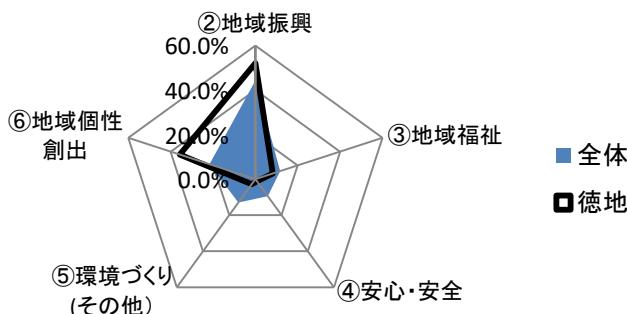
「あじすふるさとの丘」公園の環境整備活動
花壇新設

徳地地域づくり協議会 地域づくり交付金事業概要(令和6年度)

■地域の情報

地域人口	4,376人	自治会数	121
世帯数	2,076世帯	自治会加入率	95.0%

※数値は、令和7年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分枠	13,298,000 円
交付金決算額	13,298,000 円
その他収入	490,081 円
交付金決算額／配分額	100.0%

各分野の決算

①協議会運営	9,003,281 円
②地域振興	2,494,045 円
③地域福祉	393,625 円
④安心・安全	58,412 円
⑤環境づくり(土木工事)	0 円
⑤環境づくり(その他)	131,324 円
⑥地域個性創出	1,707,394 円
決算総額	13,788,081 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

いつまでも暮らしたいまち とくち ~人・絆・支え合いのまちづくり~

■総括

第3次徳地地域づくり計画に基づき、「いつまでも暮らしたいまち とくち ~人・絆・支え合いのまちづくり~」をテーマに4年目の事業を展開した。山口市徳地フェスティバルは、経費の削減をすることができた。各地区で夏まつり等の主要な行事を継続して開催することができた。地域広報紙「ふるさととくち」で安定した地域情報を発信することができている。

今後も情報交換や連携を深め、地域課題の解決ができるよう協議し、見直しをしながら引き続き取り組んでいく。

■分野別事業名

① 協議会運営	事務局人件費、事務費
② 地域振興	新たな公共ニーズへの対応、情報発信、体育・文化・教育支援事業、センターまつり事業、自治会・地域活動支援事業
③ 地域福祉	健康増進活動事業、福祉活動支援事業
④ 安心・安全	除雪サービス、防災体制の確立・支援事業、地域防犯事業、交通安全啓発事業、生活バスクーポン券負担事業
⑤ 環境づくり	環境美化事業
⑥ 地域個性創出	ふるさとイベント事業、標語看板設置事業、島地力ヌ一体験、徳地の公共交通利用促進事業、柚野地域づくり計画策定、徳地あいさつ運動192事業

■重点的に取り組んだ事業

①	事業名	ふるさとイベント事業	決算額	1,382,793円
	目的	コミュニティの基盤強化に向けた地域への愛着心の醸成		
	実施内容	①徳地フェスティバル【徳地】 ②地区夏まつり物品の整備等【出雲・八坂・島地・柚野、串】 ③花火【八坂・柚野】 ④イルミネーションの設置・お楽しみ会【出雲・八坂・島地】		
	実施時期	①令和6年11月3日 ②令和6年7月、8月 ③令和6年8月～12月 ④令和6年12～令和7年1月		
	参加人数	①2,000人 ②延べ来場1,700人 ③来場合め500名 ④189人		
	成果	①徳地地域複合型拠点施設での2回目のフェスティバルで徳地体育館周辺の駐車場を利用することができた。経費の削減もできた。②各地区で夏まつりを開催し賑わった。地域住民が中心となり運営を行いおもてなしを行うことができた。③花火大会実行委員会が徳地花火大会を5地区で実施するにあたり各地区において協力した。④徳地のイルミネーションイベント「とくぢ行って美夜」に協力し、冬のイベントとして定着した。		
	評価	役員交代等で地域イベントを開催するためのノウハウや人材に不安が出ていたが、これから担い手が積極的に協力してくれるようになり、全体的に活性し次年度への意欲へ繋がった。		
	今後に向けて	役割分担や担い手等課題もあるが、これからを見据えつつ継続実施していきたい。		
②	事業名	情報発信	決算額	1,598,790円
	目的	コミュニティの基盤強化に向けた地域住民同士の繋がりづくり		
	実施内容	①地域広報誌「ふるさとくち」の作成・発行【徳地】 ②分館と協働での分館だより作成・発行【島地】 ③地域づくり協議会だよりの作成・発行【徳地】 ④地域づくり協議会だよりの作成・発行【出雲】 ⑤ゆたかな串を育てる会会報の発行・配布補助【串】 ⑥webでの情報発信【徳地】		
	実施時期	①毎月 ②令和6年5月 ③7月、1月 ④7月、3月 ⑤3月 ⑥通年		
	参加人数			
	成果	①偶数月：A4版6Pの広報誌を2,800部発行 奇数月：A4版4Pの広報誌を2,800部発行 ②令和6年度の活動予定のお知らせ ③A4で7月2400部、1月500部発行 ④A4版2Pで発行 ⑤地区内及び提出者にも配布 ⑥HP等で情報発信を行う		
	評価	地域内外への効果的な情報発信で、地域活動への参画意識を図ることができた。		
	今後に向けて	より良い情報発信のため、情報収集へも注力していきたい。		

	事業名	新たな公共ニーズへの対応	決算額	451,760円
	目的	課題への意識を高め課題解決に向けた先進地視察や話し合いの場づくり		
	実施内容	①徳地の公共交通を考えるプロジェクト(交通PJ)【徳地】 ②先進地等への視察【徳地、出雲、八坂、柚野、島地、串】		
	実施時期	①令和6年5月、12月 ②令和6年6月、10月、11月、令和7年3月		
③	参加人数	①36名 ②延べ92名		
	成果	①再編された徳地生活バスについて勉強会、協議を実施(AIデマンド交通) ②【徳地】隣接する地区的取組(周南市鹿野) 【出雲】隣接する地区的取組(山口市仁保) 【八坂】地域の取組(山口市阿知須) 【柚野】防災研修視察(広島市豪雨災害伝承館) 【島地】里づくりの取組(島根県益田市) 【串】防災学習館見学(下関市消防防災学習館)		
	評価	①交通デマンド交通導入について知ることができ、協議をすることができた。 ②課題への意識が高まり解決のヒントを得ることができた。		
	今後に向けて	①安心した暮らしのための移動手段づくりの見直し、協議を行いたい。 ②地域課題に合った研修先の情報交換会を行っていきたい。		

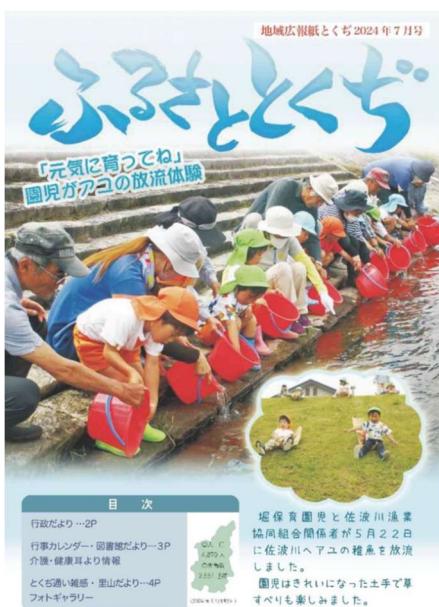
重点的に取り組んだ事業(徳地)

○ふるさとイベント事業



徳地フェスティバル

○情報発信



○新たな公共ニーズへの対応



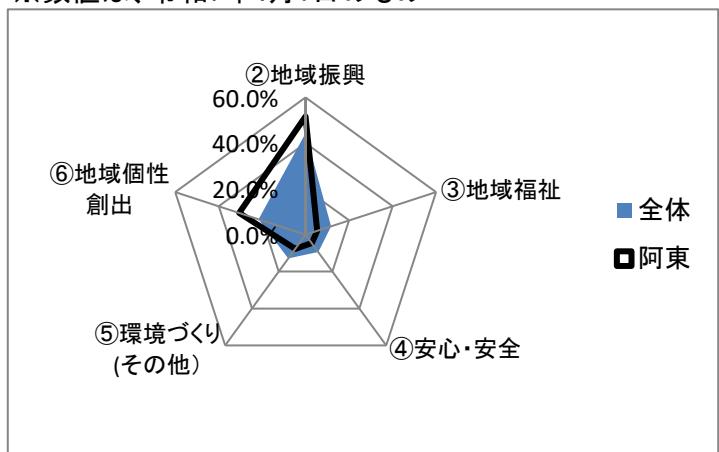
先進地等視察研修

阿東地域づくり協議会 地域づくり交付金事業概要(令和6年度)

■地域の情報

地域人口	4,100人	自治会数	123
世帯数	2,020世帯	自治会加入率	101.4%

※数値は、令和7年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分枠	14,136,000 円
交付金決算額	14,088,379 円
その他収入	2,715 円
交付金決算額／配分額	99.7%

各分野の決算

①協議会運営	9,210,322 円
②地域振興	2,522,206 円
③地域福祉	258,719 円
④安心・安全	227,686 円
⑤環境づくり(土木工事)	0 円
⑤環境づくり(その他)	379,238 円
⑥地域個性創出	1,492,923 円
決算総額	14,091,094 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

すべての世代がふるさとへの誇りを持ちみんなでつくる阿東地域

■総括

過疎化高齢化等で、後継者不足のなか、各地域内で事業に取り組み成果をあげた。

■分野別事業名

① 協議会運営	事務局人件費、事務費
② 地域振興	【各地区協議会集約分】 篠生盆踊り【篠生】 篠生分館竣工記念イベント【篠生】 長門峡カフェ&渓谷てくてくウォーク【篠生】 長門峡・篠生関係人口創出プロジェクト【篠生】 生雲地区盆踊り大会【生雲】 祭りを盛り上げよう【生雲】 生雲ふれあいフェスタ【生雲】 生雲サマーナイトフェスタ【生雲】 新春交流会【生雲】 しだれ桜フェスタ【地福】 ほほえみの郷トイトイ感謝祭【地福】 関係人口創出の取り組み【地福】 自治会連合会活動の充実【地福】 ふるさと探訪【徳佐】 イルミネーション事業【嘉年】 嘉年ホタル観賞会【嘉年】 グラウンドゴルフ大会【嘉年】 嘉年ゆうすげフェスタ【嘉年】 ふれあい運動会【嘉年】 ふれあいマップ活用事業【嘉年】 笑顔力フェ事業【嘉年】 広報誌発行【徳佐】 広報誌発行【嘉年】 【阿東全体分】 地域広報誌発行 令和版あとうふるさと祭 地域を明るく照らすイルミネーション
③ 地域福祉	【各地区協議会集約分】 敬老会【篠生】 地域の仲間と交流＆活性化の研修の旅【篠生】 三世代交流門松づくり【篠生】くもたんハウス支援事業【生雲】 福祉的まちづくりを考える会【徳佐】 福祉交流会【徳佐】 三世代交流会【徳佐】
④ 安心・安全	【各地区協議会集約分】 防災研修会【篠生】 自主防災【嘉年】 自主防災【生雲】

⑤ 環境づくり	【各地区協議会集約分】 もみじ祭り事前景観整備事業【篠生】 地区民みんなで清掃活動【生雲】 桜の園【生雲】 木和田トイレ清掃【生雲】 和田山・勝山城跡整備事業【嘉年】 クルミ事業【嘉年】 【阿東全体分】 JR山口線駅トイレ管理費の補助
⑥ 地域個性創出	【各地区協議会集約分】 長門峡もみじ祭り【篠生】 篠目駅を活用した山口線と地域活性化【篠生】 生雲どんど 【生雲】 きもだめし大会【生雲】 秋祭り子どもみこし【生雲】 秋祭り奴道中・花車巡業【生 雲】 読み聞かせ【生雲】 クリスマスナイトフェスティバル30周年【地福】 地域で支える青 少年健全育成【地福】 魅力ある学校を地域外に発信【地福】 どんど焼き【徳佐】 徳佐 夏祭り【徳佐】 ヤマシャクまつり【徳佐】 市川ホタルの会【徳佐】 神楽舞保存活用事業 【嘉年】 若者支援事業【嘉年】 【阿東全体分】 徳佐小学校ふれあいコンサート 梨とりんごのお花見ピクニック 文芸阿東発刊 阿東グ リーンコーラス記念誌発刊 小中学校交流会 新成人記念品贈呈

■重点的に取り組んだ事業

①	事業名	令和版あとうふるさと祭	決算額	804,736円
	目的	阿東の魅力を発信する。		
	実施内容	ステージイベント、バザー、体験コーナー、地域おこし協力隊活動報告会など		
	実施時期	令和6年11月17日		
	参加人数	440名		
	成果	阿東のおいしい食べ物など、阿東の魅力を発信できた。		
	評価	子どもから高齢者、また阿東地域外の人も多数来場してくれた。		
	今後に向けて	次年度も引き続きイベントを実施したい。		
②	事業名	広報活動(あいらぶあとう地域広報誌発行)	決算額	506,880円
	目的	地域広報誌あいらぶあとうを発行する。		
	実施内容	地域版広報誌の発行		
	実施時期	令和6年4月～令和7年3月		
	参加人数	2,800部		
	成果	阿東全域に戸別配布した。		
	評価	編集会議を重ね地域の情報を掲載した。		
	今後に向けて	より見やすい紙面づくりをめざす。		

③	事業名	新成人記念品贈呈事業	決算額	124,200円
	目的	少子高齢化のなか、阿東を離れた新成人の方に故郷を思い出してもらう。		
	実施内容	阿東の特産品や新成人の写真を掲載した広報誌を贈った。		
	実施時期	令和6年12月～令和7年2月		
	参加人数	23人		
	成果	24人中23人から申し込みがあった。		
	評価	新成人やご両親から謝意があった。		
今後に向けて		新成人の多くが市外居住で阿東地域の情報提供の一助となった。		

重点的に取り組んだ事業(阿東)

○令和版あとうふるさと祭



○広報活動(あいらぶあとう地域広報誌発行)



○新成人記念品贈呈事業

